

537

140

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



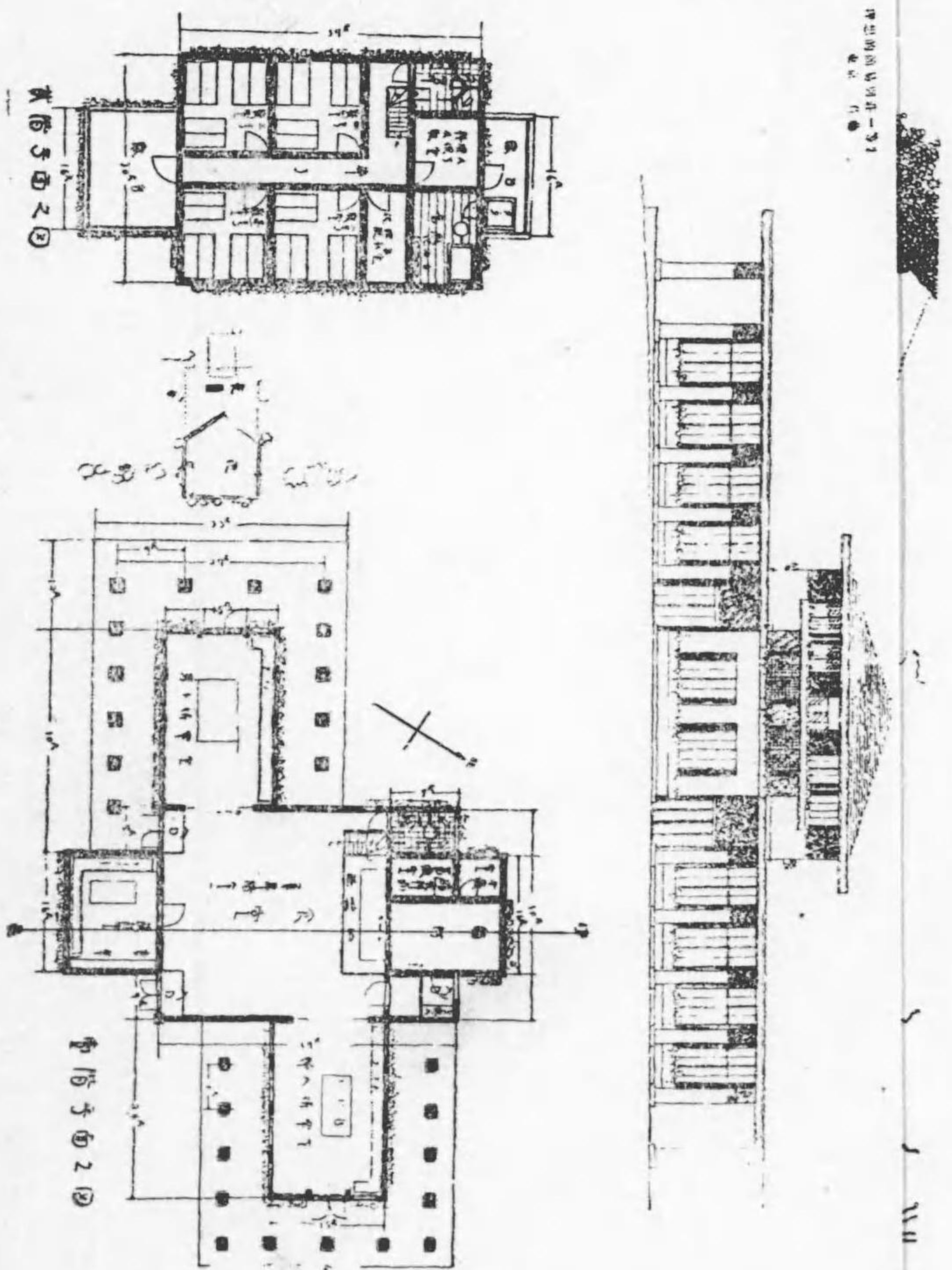
改良住宅及文化住宅

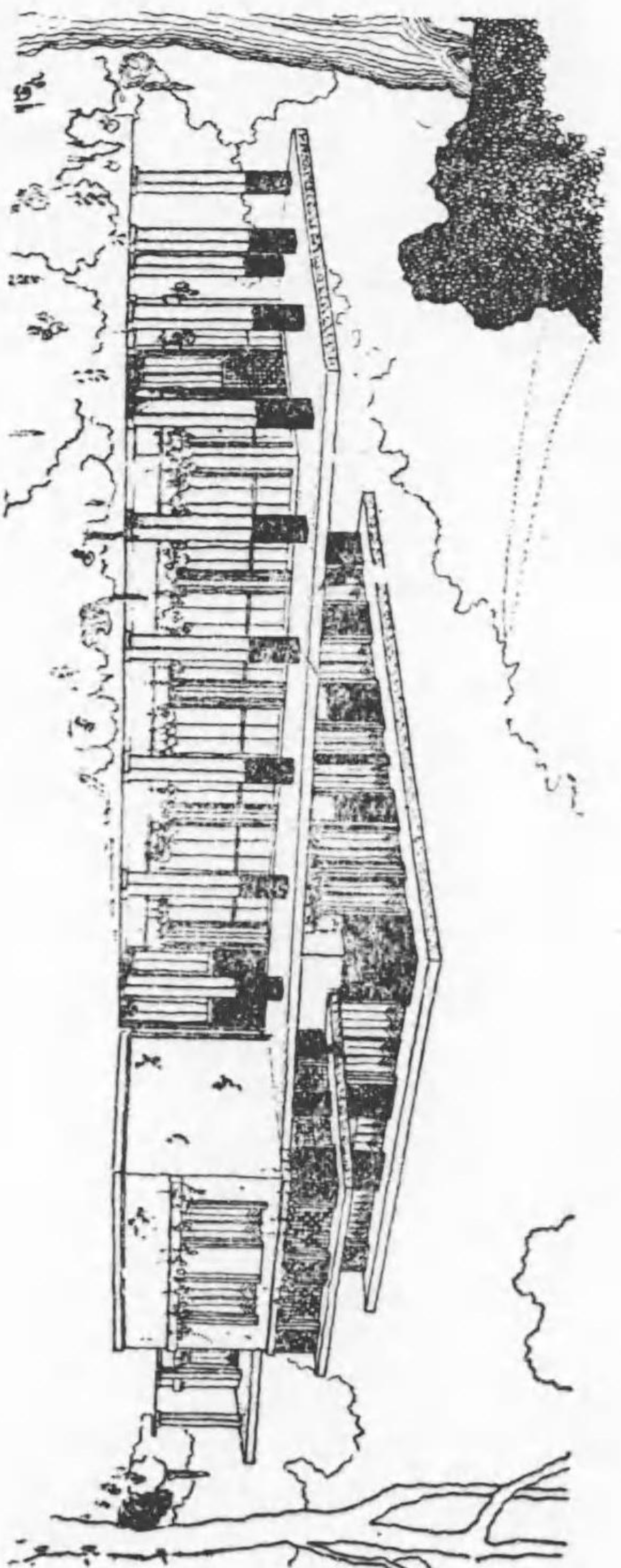
337-140

大正
14.6.4
丙交

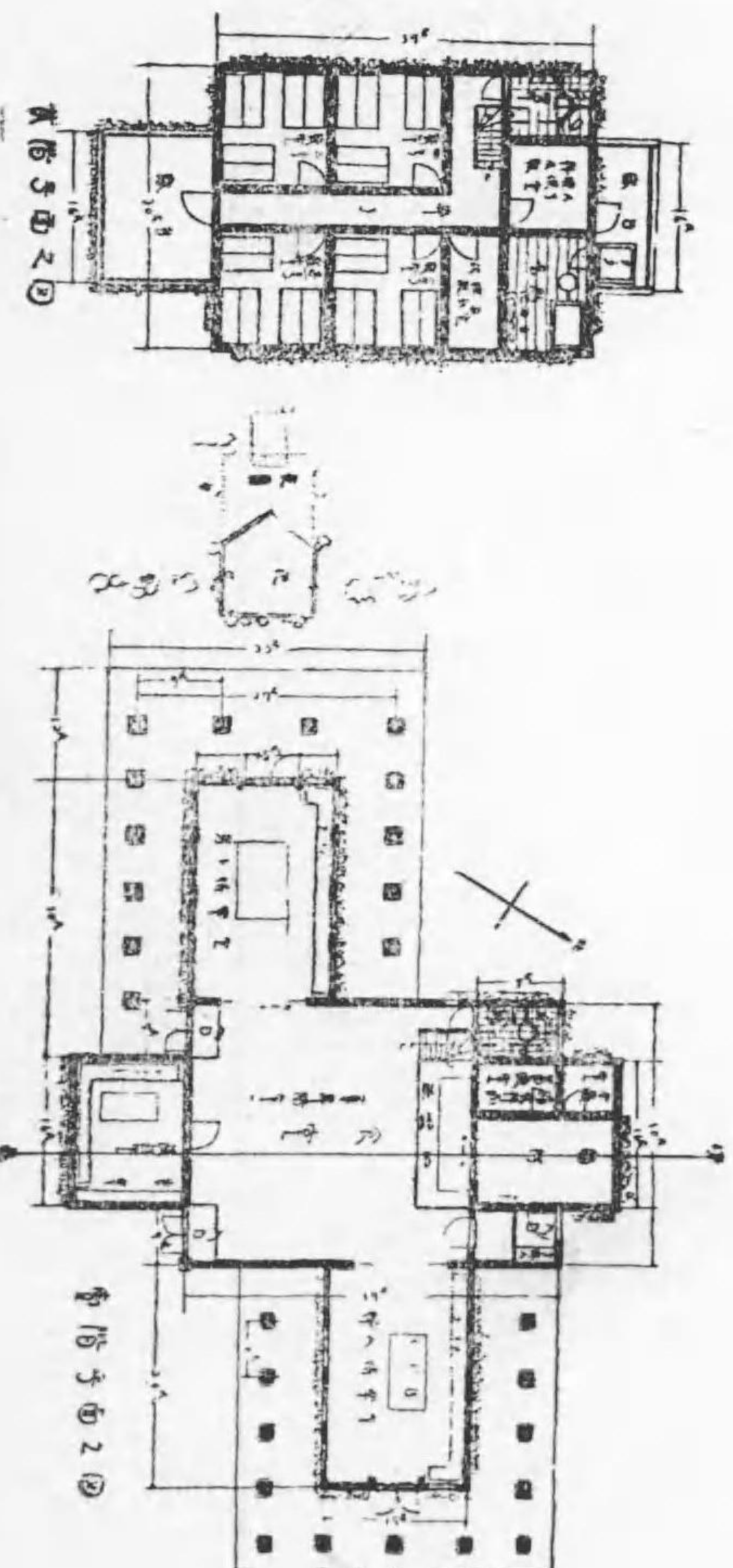
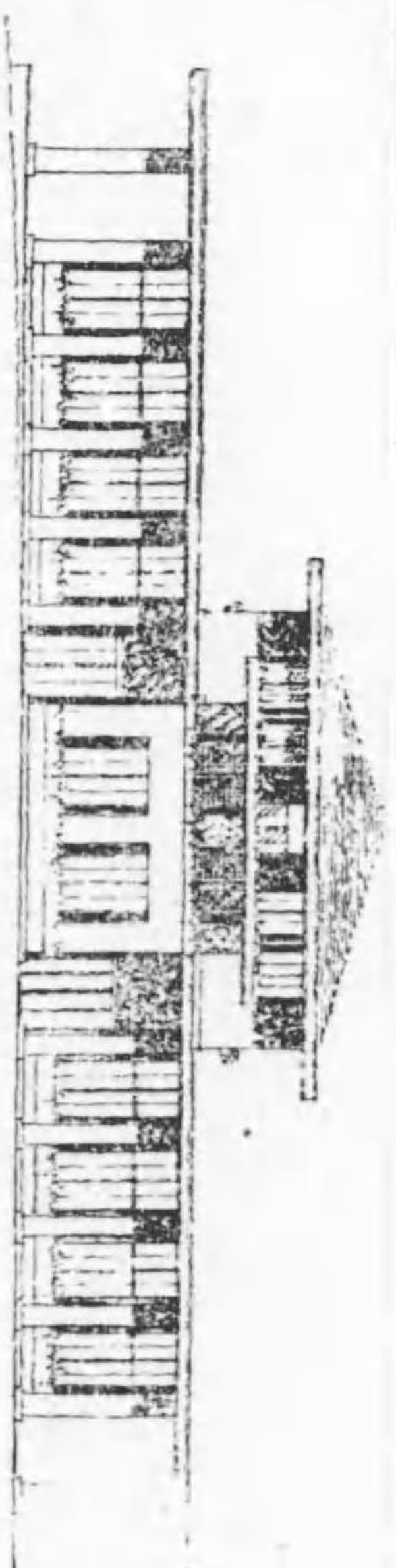
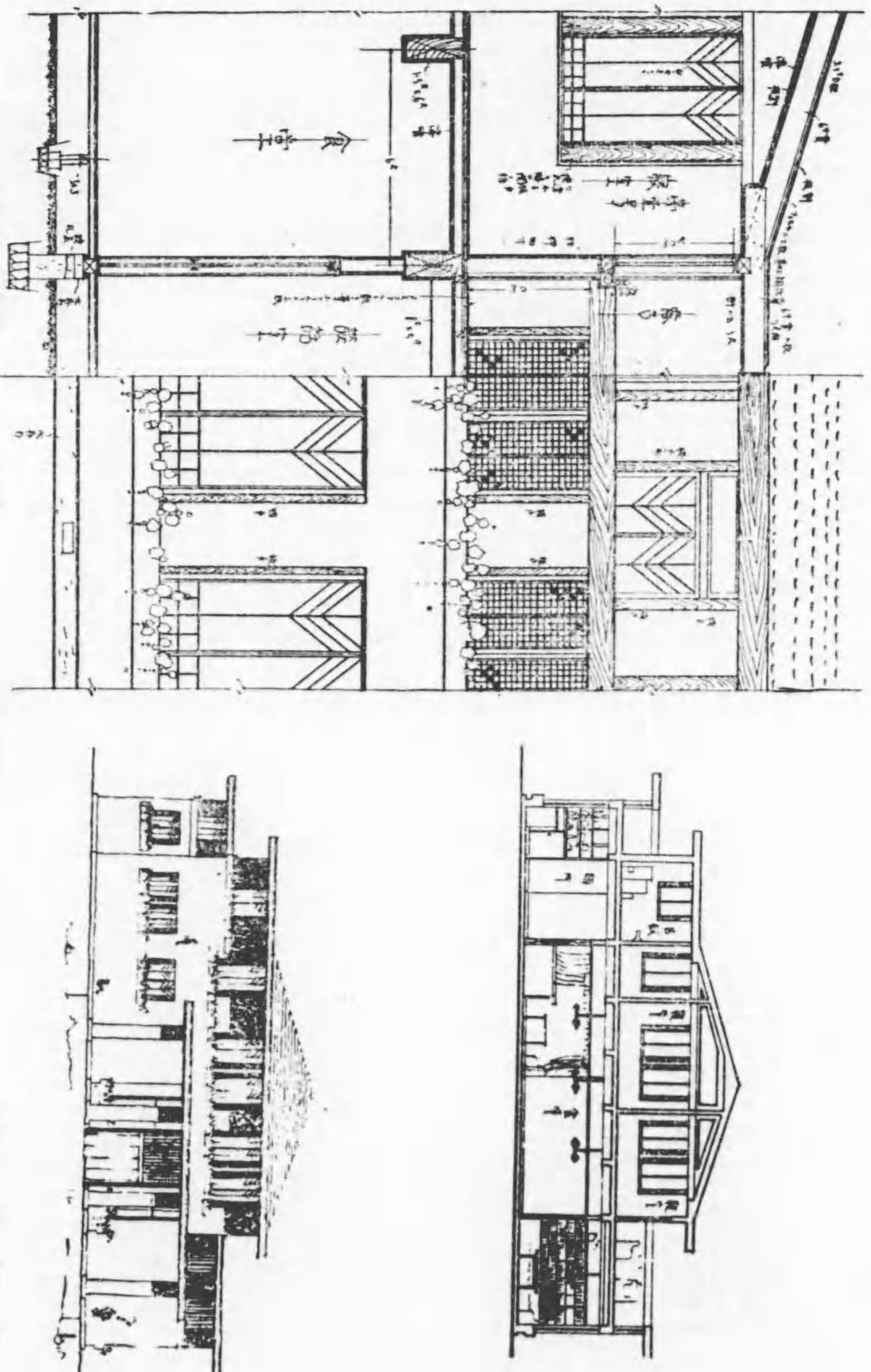
東京帝國建築協會發行

第一圖

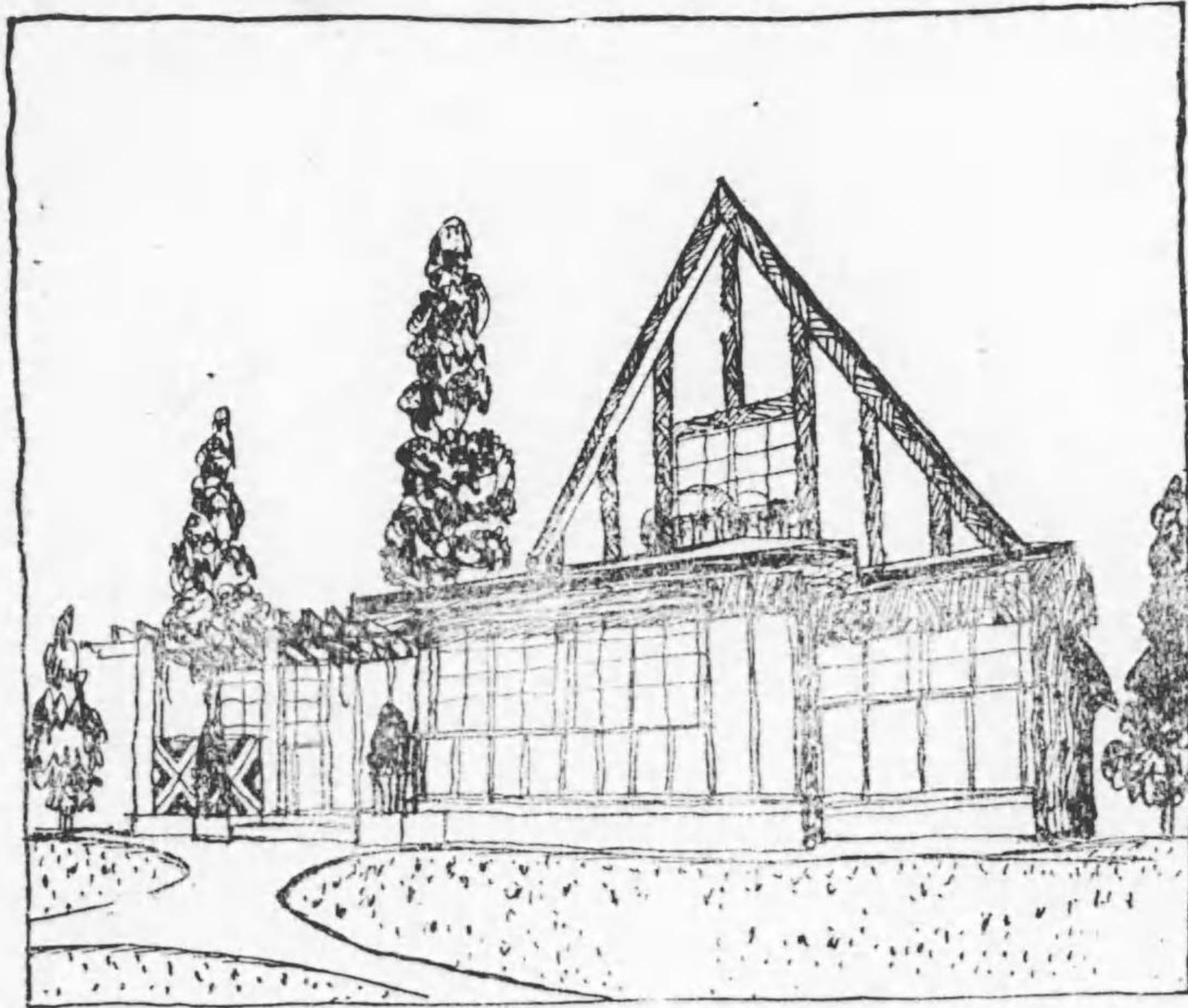




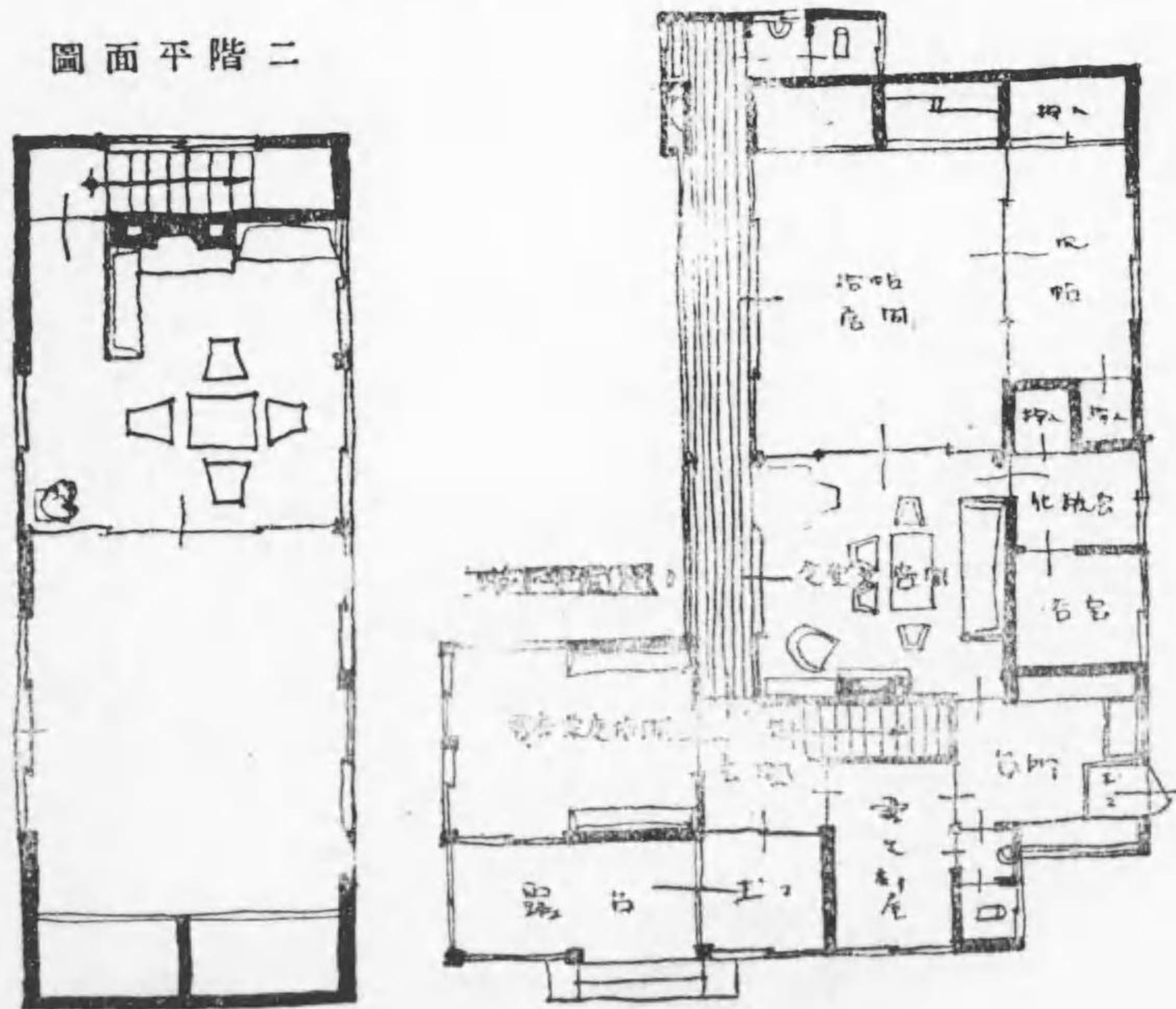
第一圖



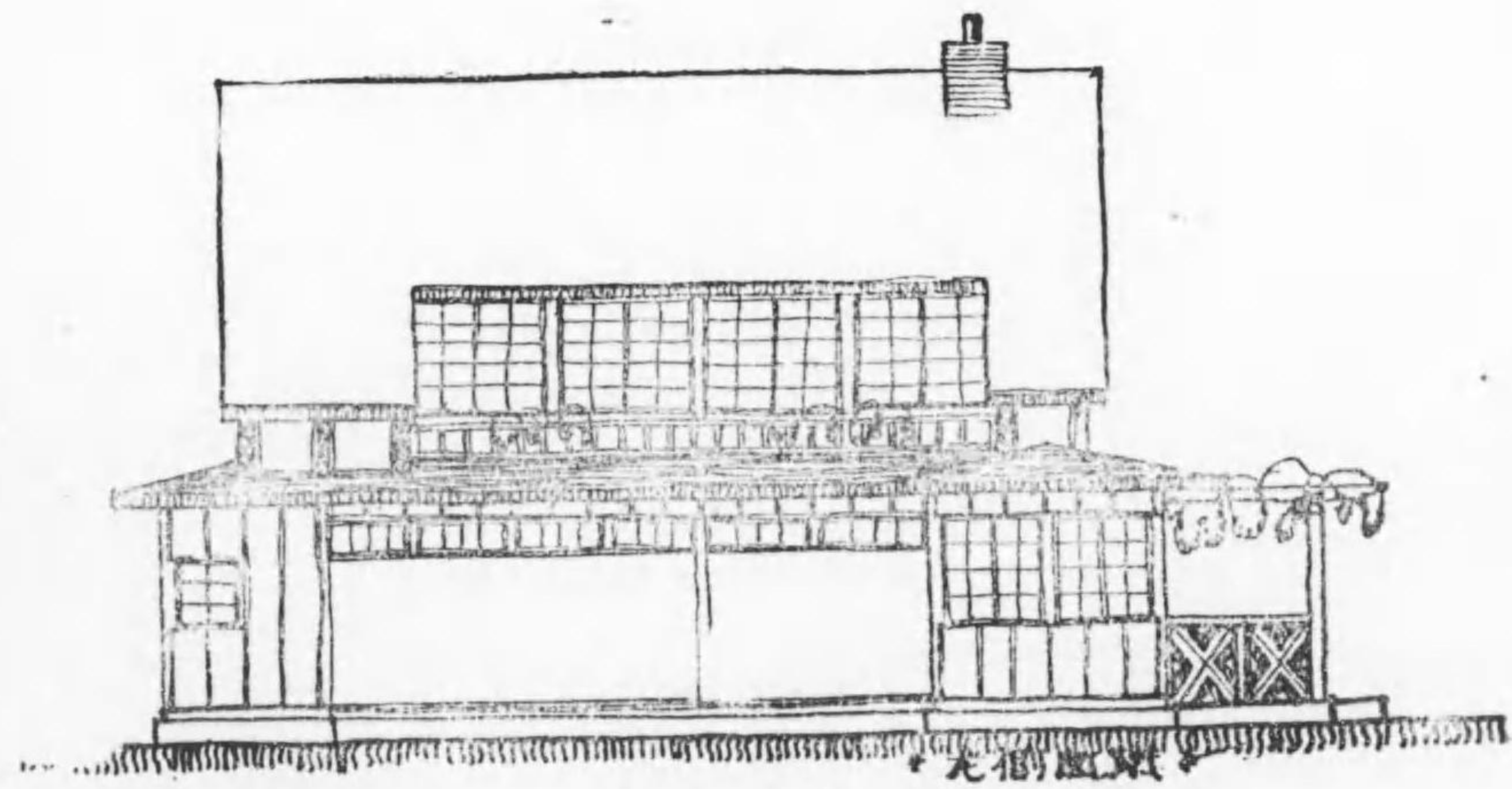
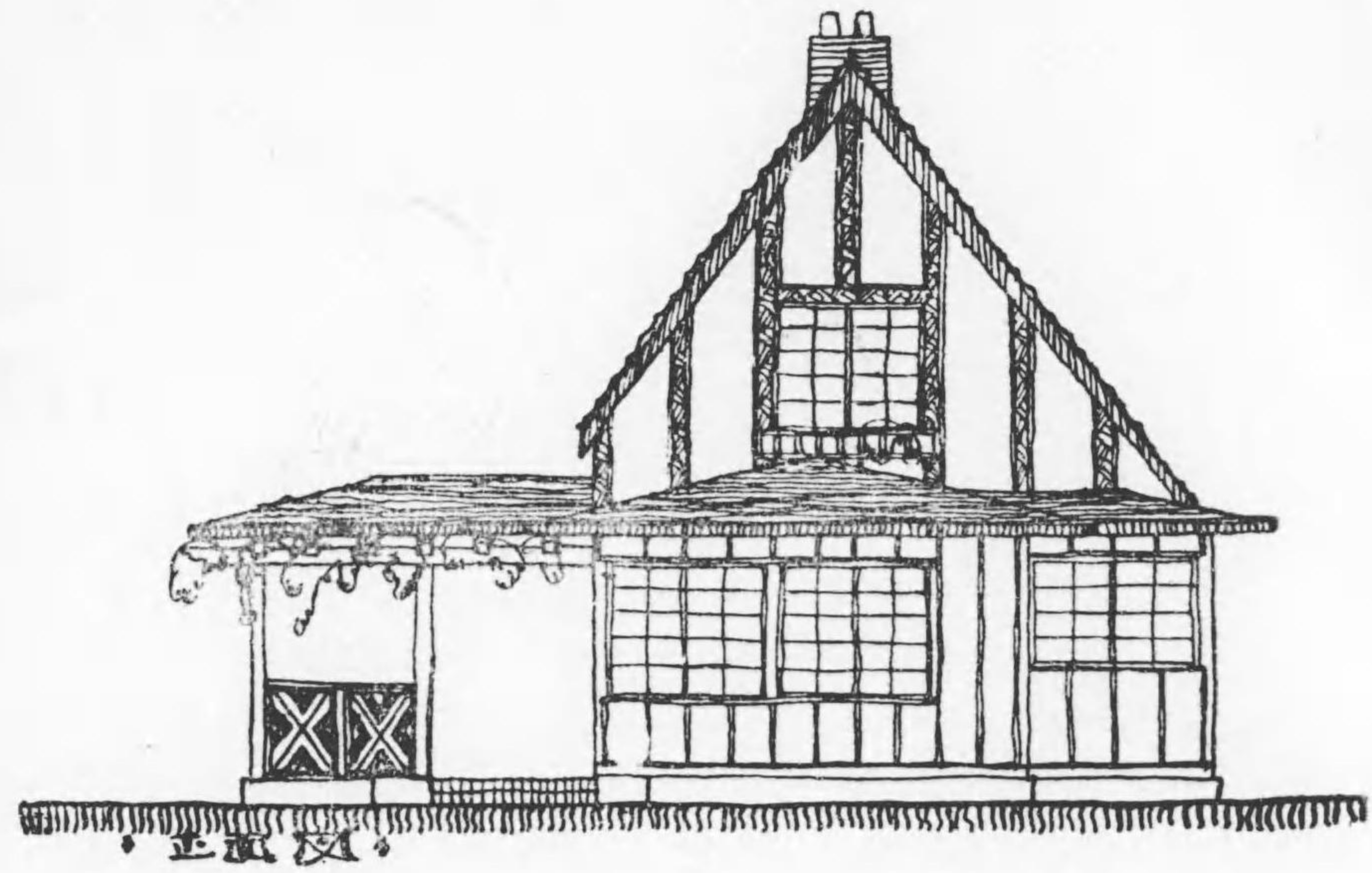
第 二 圖
其 一



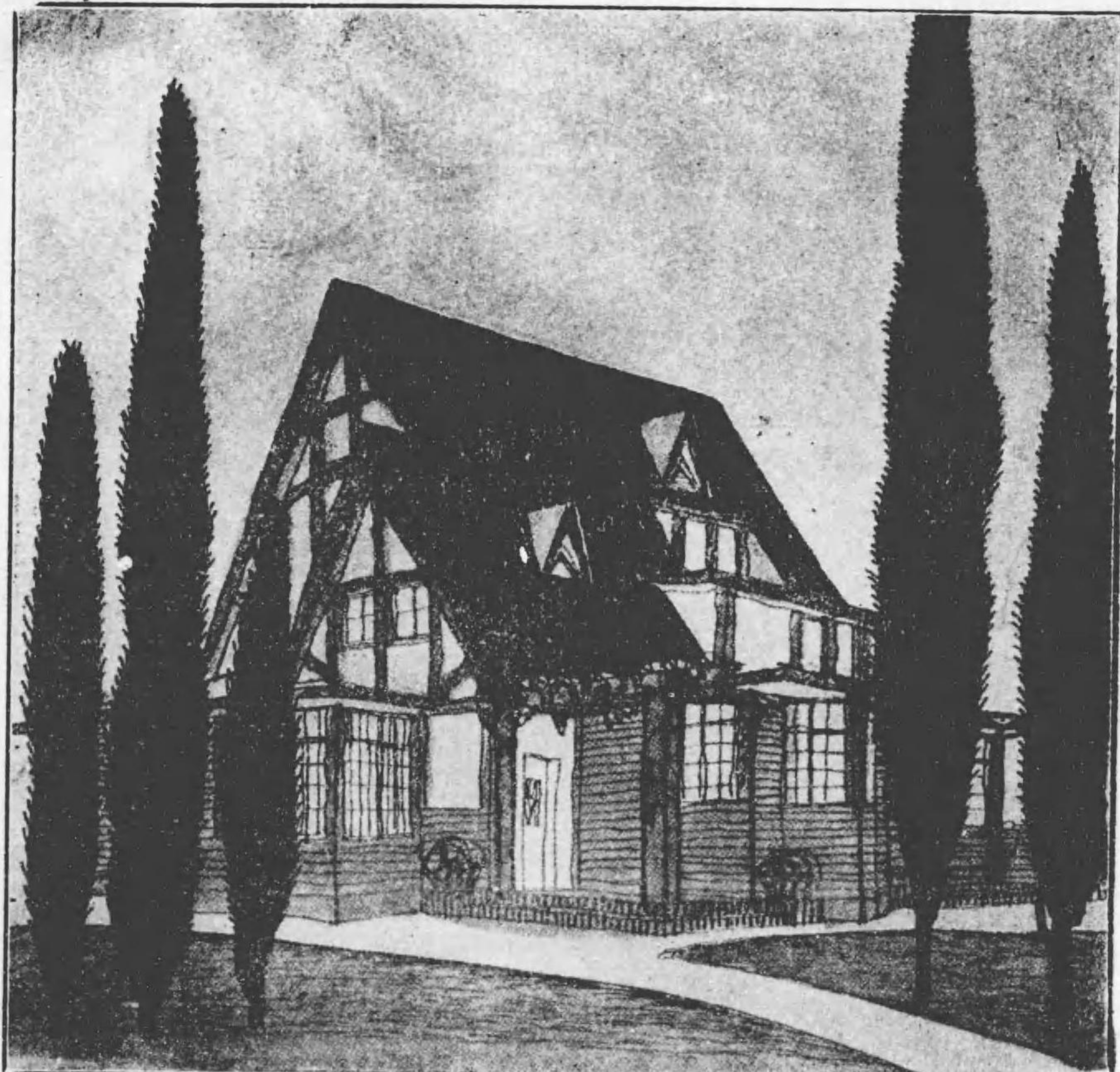
圖面平階二



第三圖
其二



第 四 圖
其 一



説明

建坪

階下 四拾坪四合二勺五才

階上 拾坪二合五勺

合計 五拾坪六合七勺五才

家族

夫婦 小供一人 老人一人 女中一人

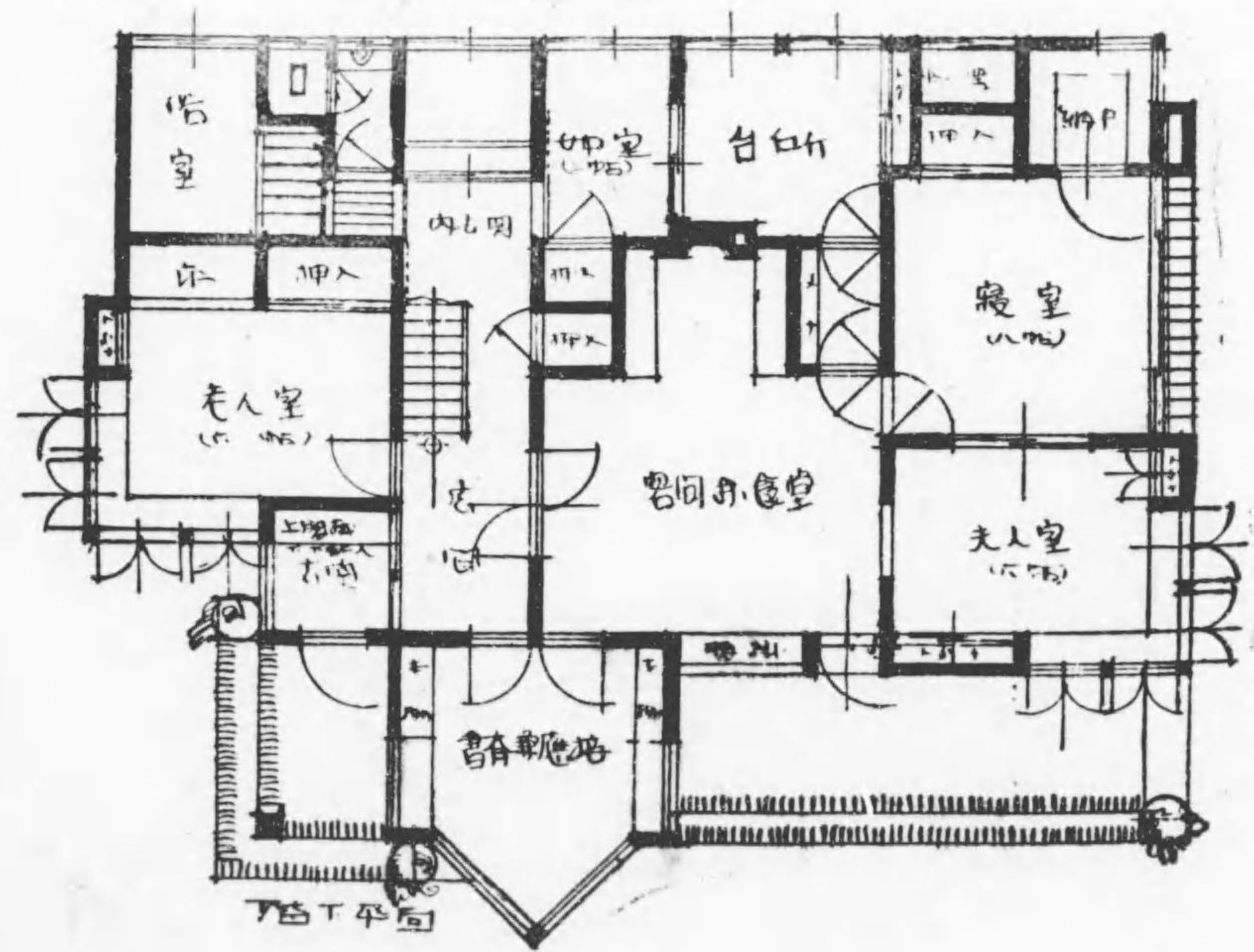
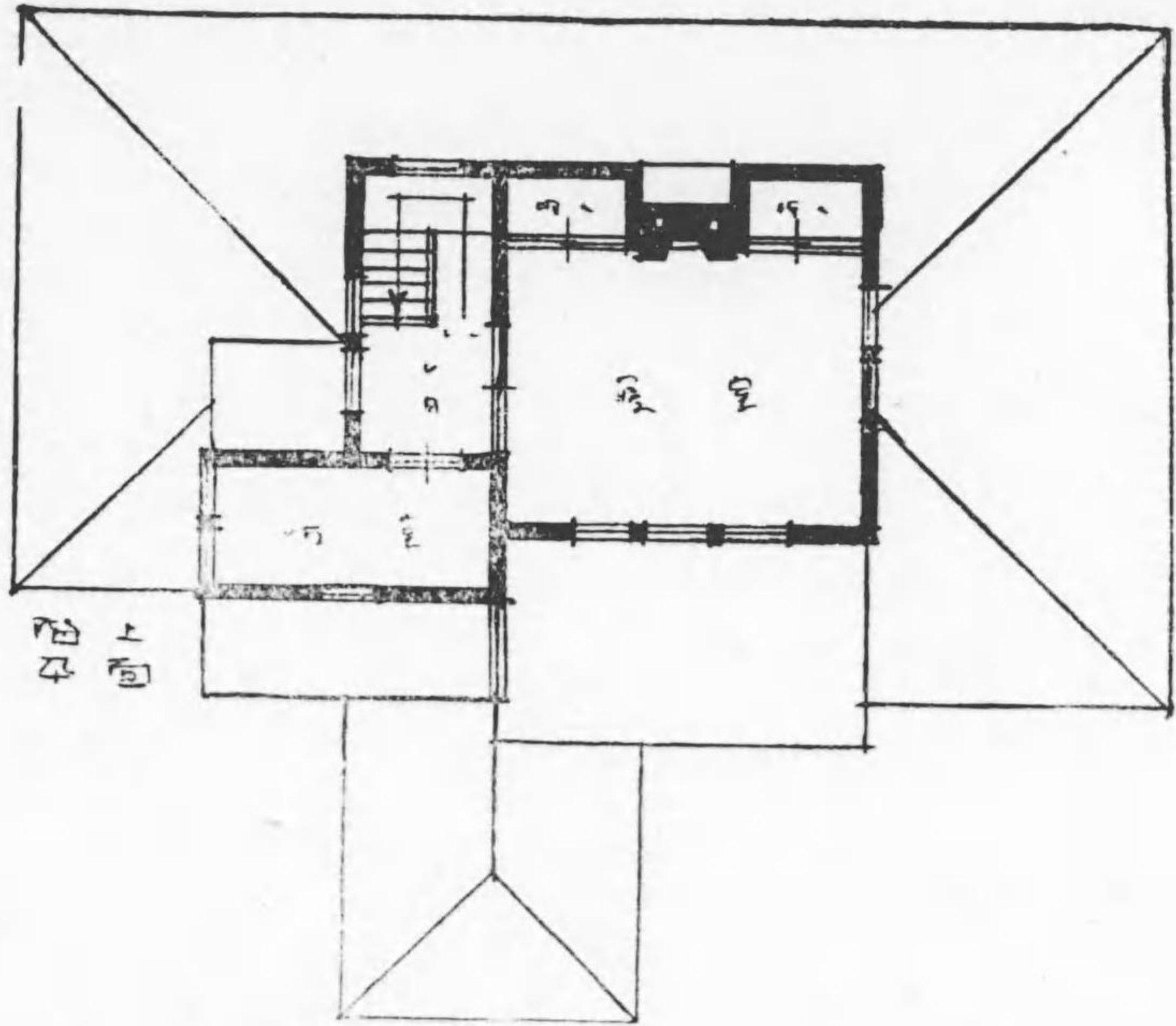
説明

尖つた三角な四妻重復と平らな極勿配のゆるい屋根とが混和されて面白い外觀を作つてゐます。そして「ポーチ」には藤棚を掛け緑葉が風になびいて氣持のいい「ポーチ」が出来上りませう、玄關の土間には一方に造り付けの腰掛けを置き其の下を下足入れにして置けば便利で御座います、玄關から廣間に入りますと此所から居間、老人室、女中部屋、便所、浴室、階段より階上へと通する様な便利な間取りで御座います、それに裏玄關も此れを通じて居ますから表玄關同様に便利です、居間は採光の充分と通風の便さの爲めに一部を階上の窓下まで天井を上げました、此の室は食堂を兼ねて居間にも客間にも使用致します、暖爐の所は「アルコーブ」にして煙突は台所のご共通に致します、此所には向き合ひ椅子を掛けて家族的な食事を取る處と致します、尙來客の應接にも家族的な食事を合に使つてよき一角となるで御座います、婦人室、老人室は日本座敷で出窓は肘掛け窓にして下を地袋にして置けば便利です

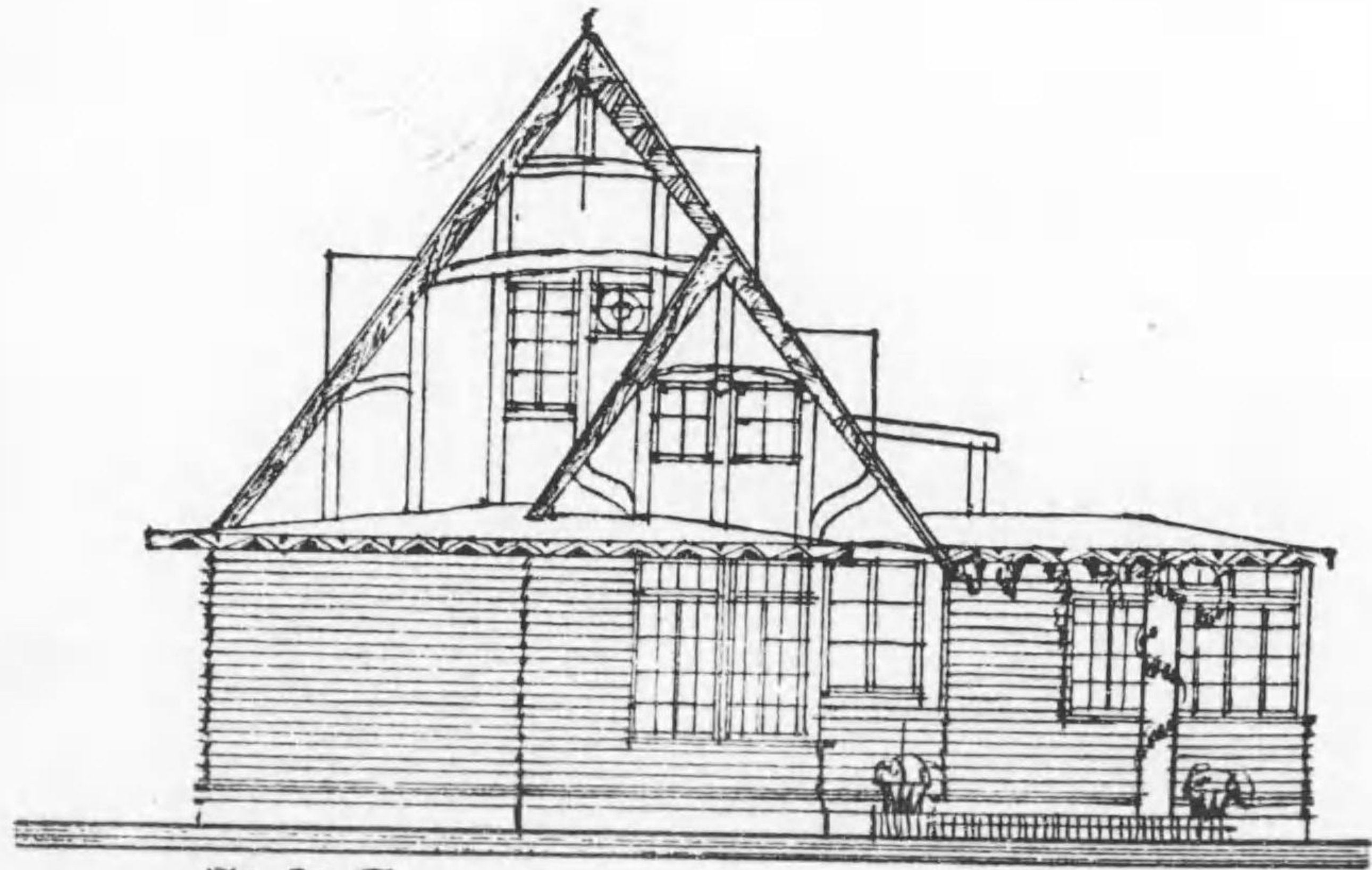
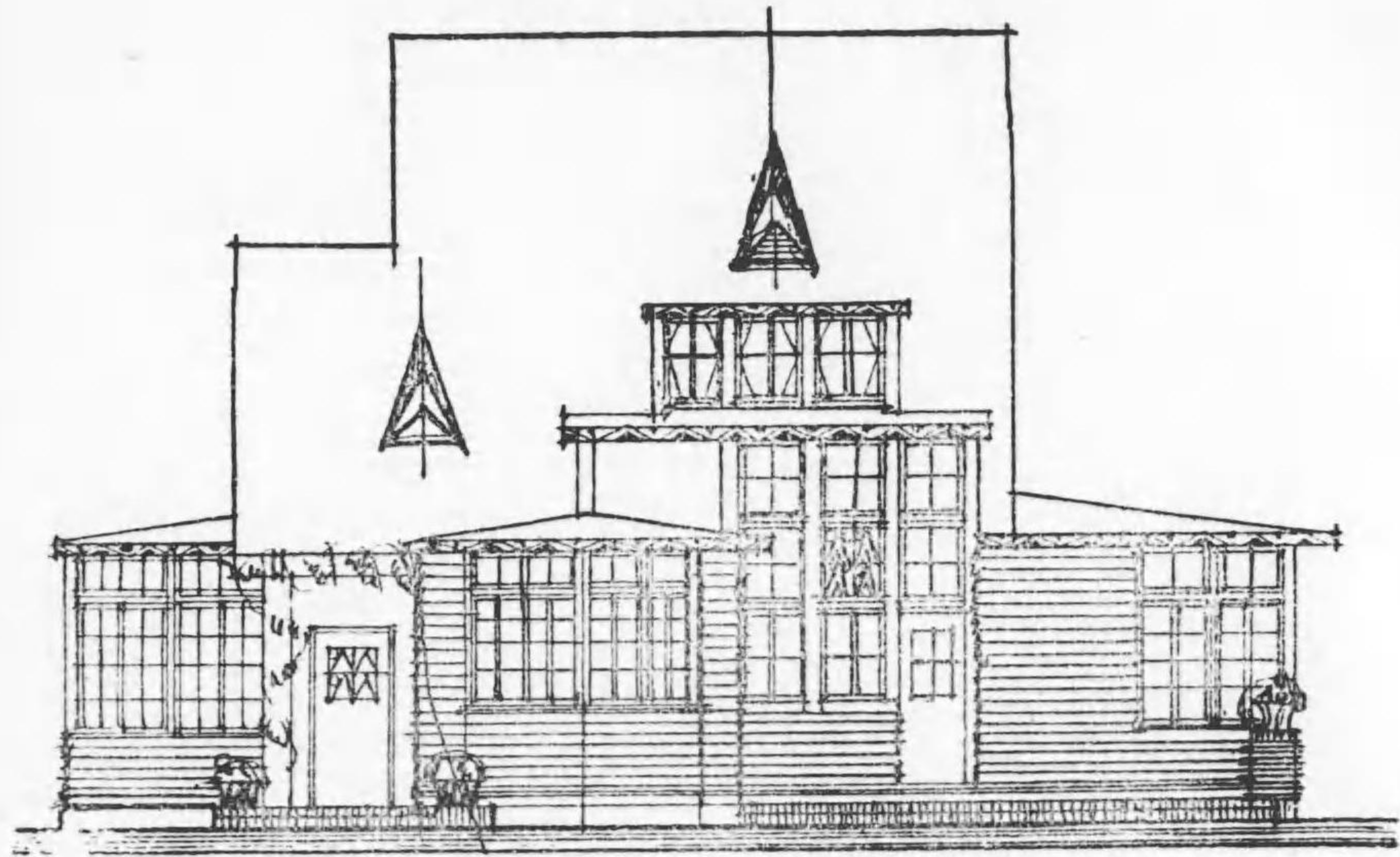
構造

木造で南京下見と漆喰塗の壁と混合です、尖つた屋根は赤瓦で平らな屋根は亜鉛引鐵板へペンキを塗るか又銅板葺にすれば誠に結構です、妻の所は柱小屋梁を出し漆喰塗にしたら雅致もあり面白

第五圖
其二

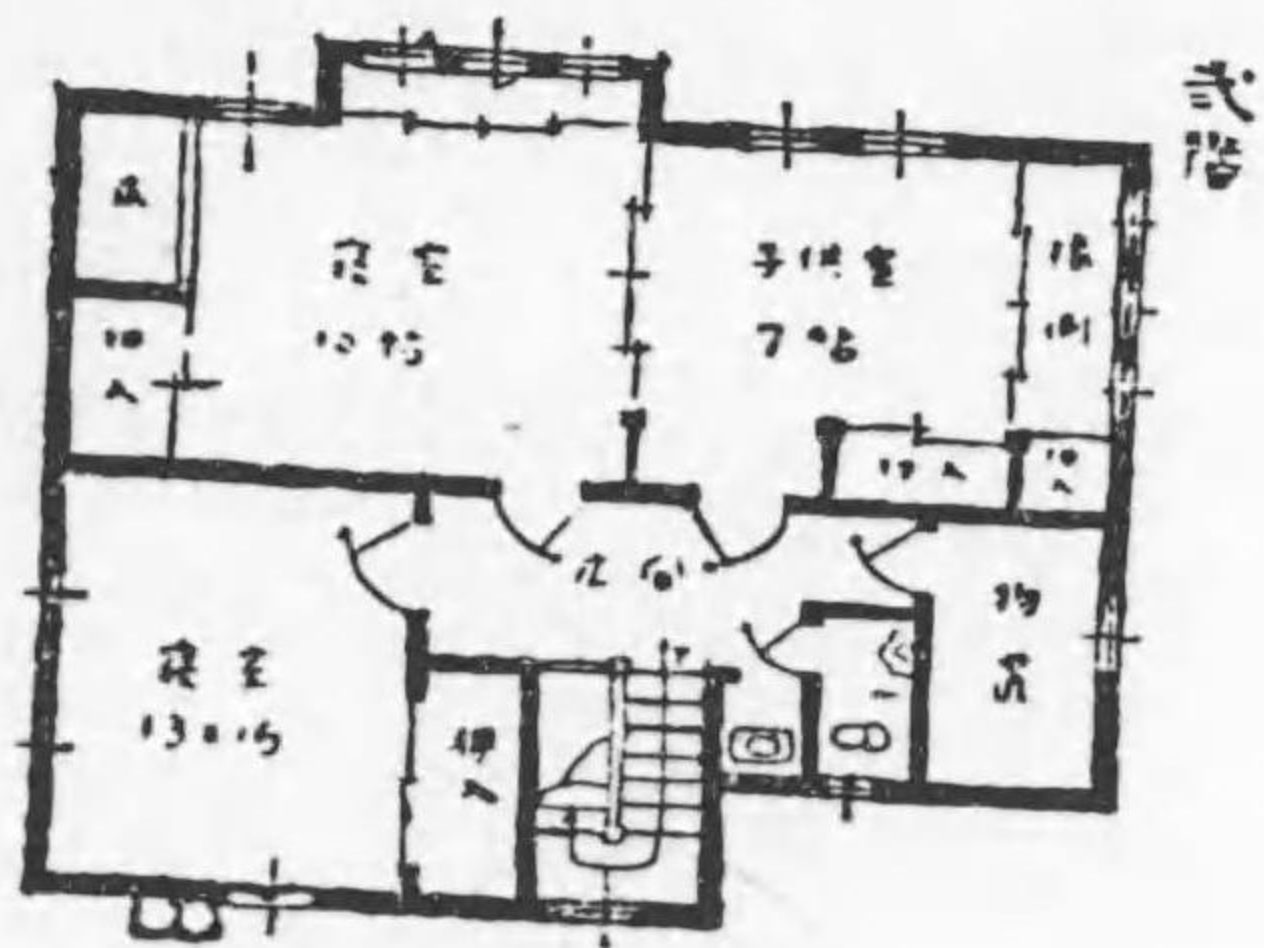
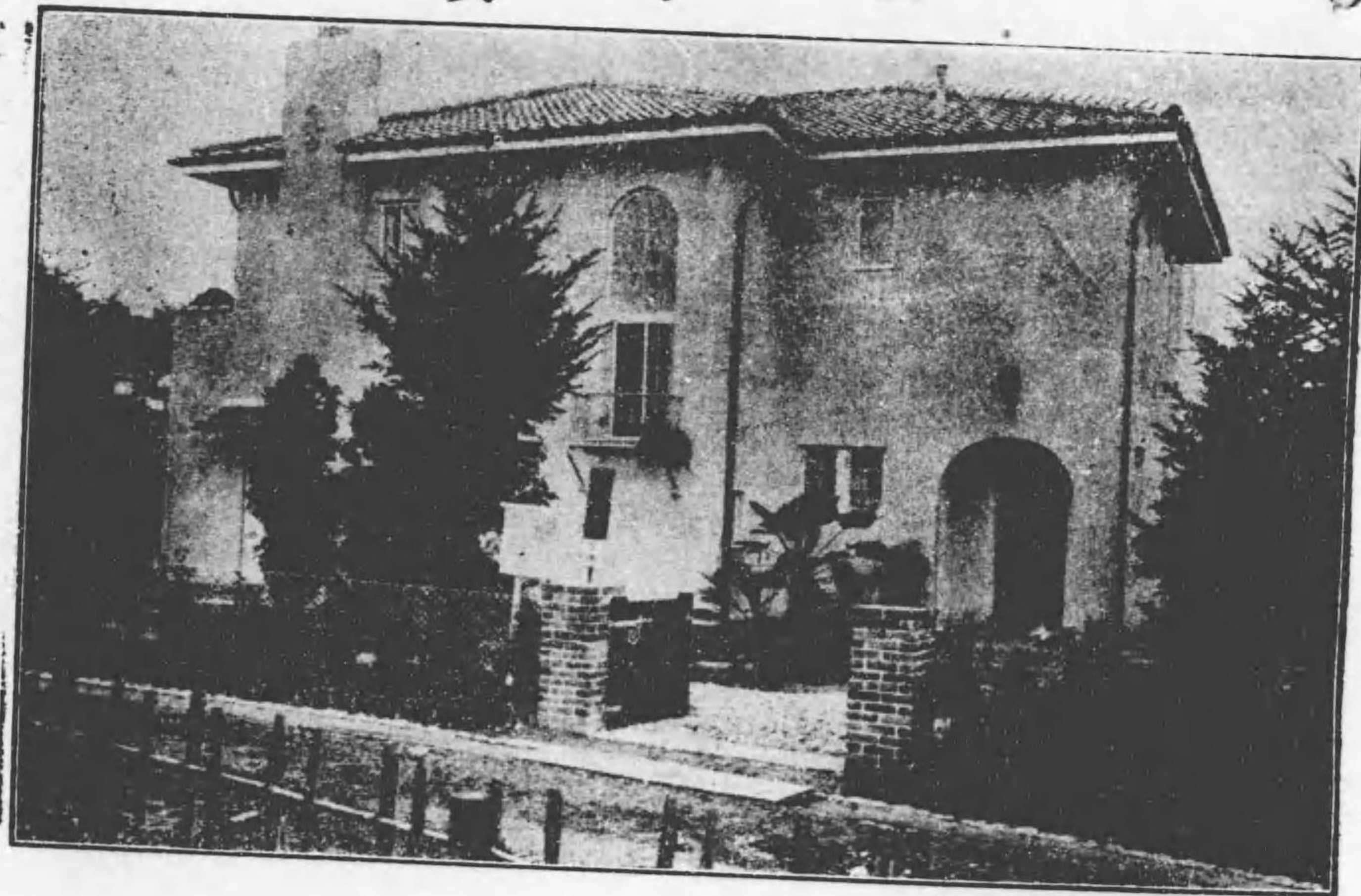


第六圖
其三

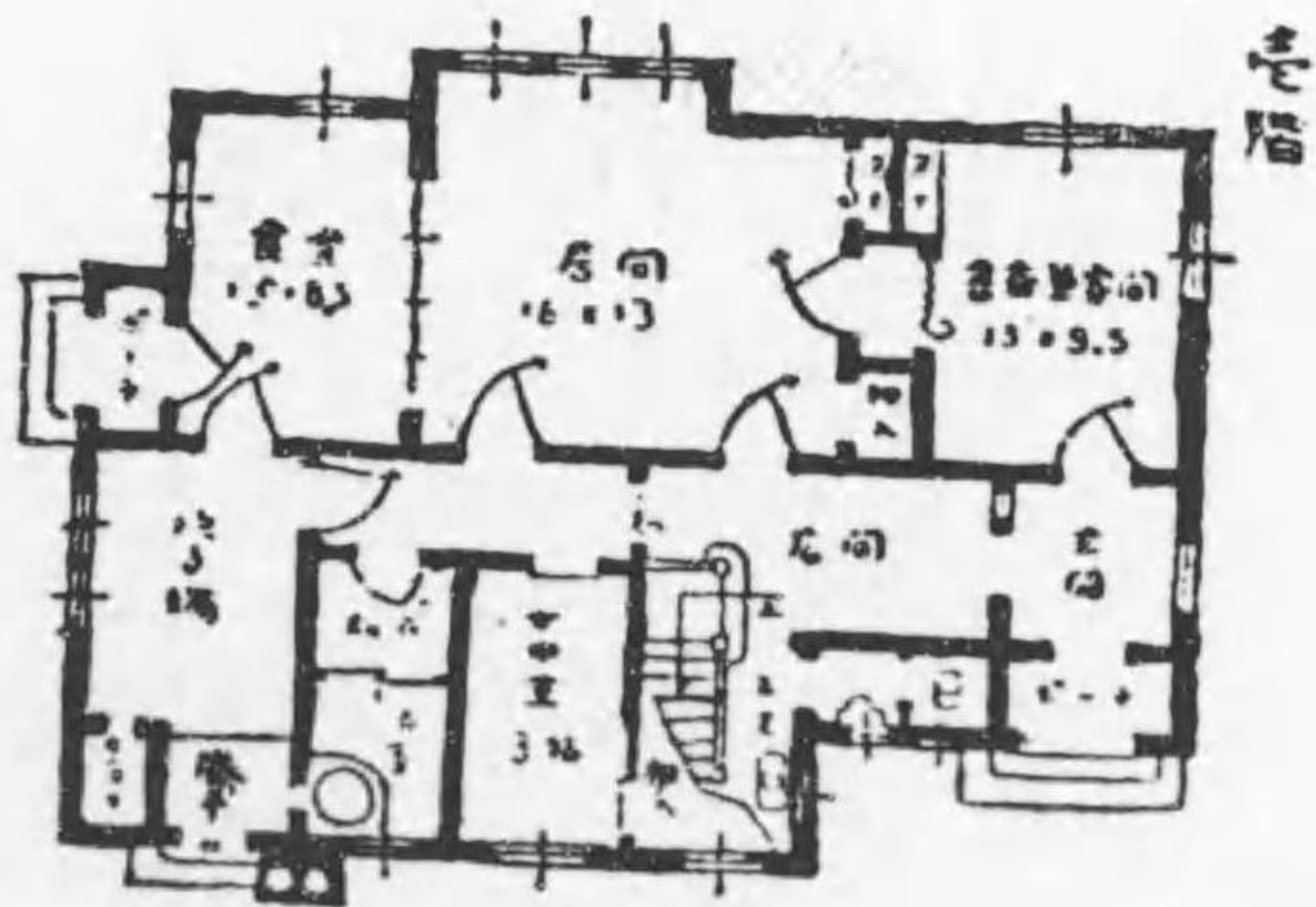


例圖

第七圖
其第一



1階



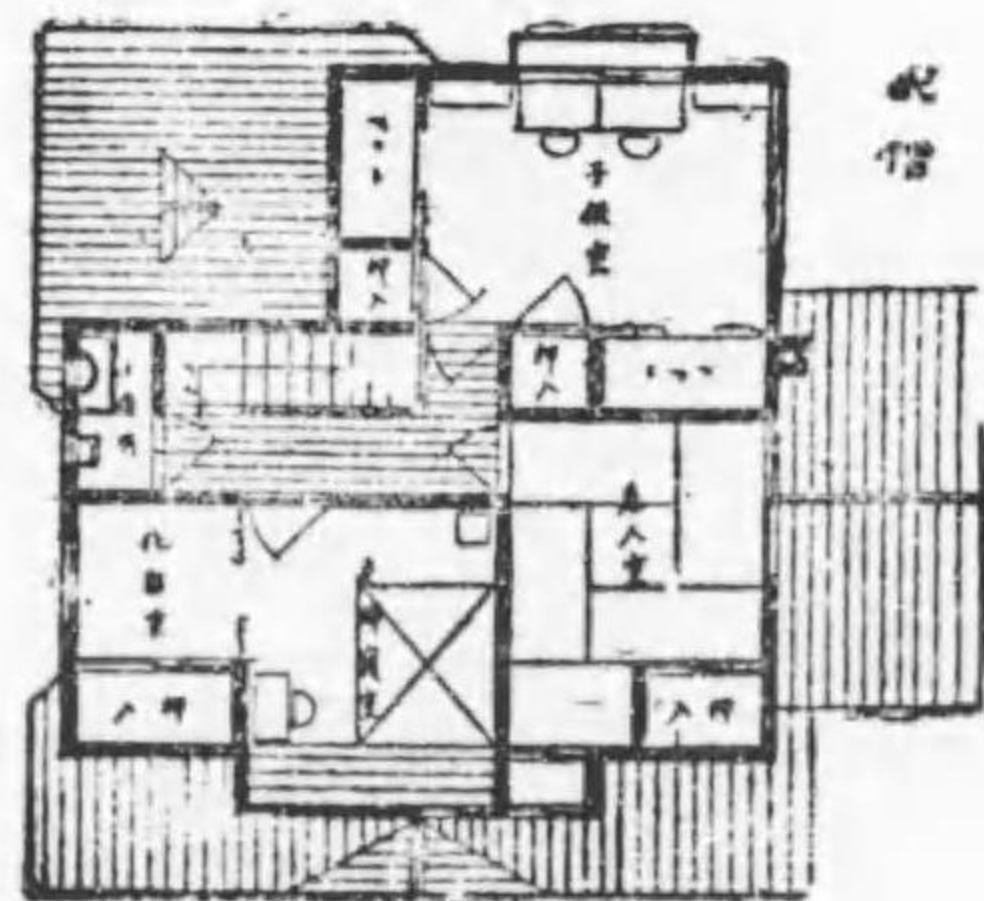
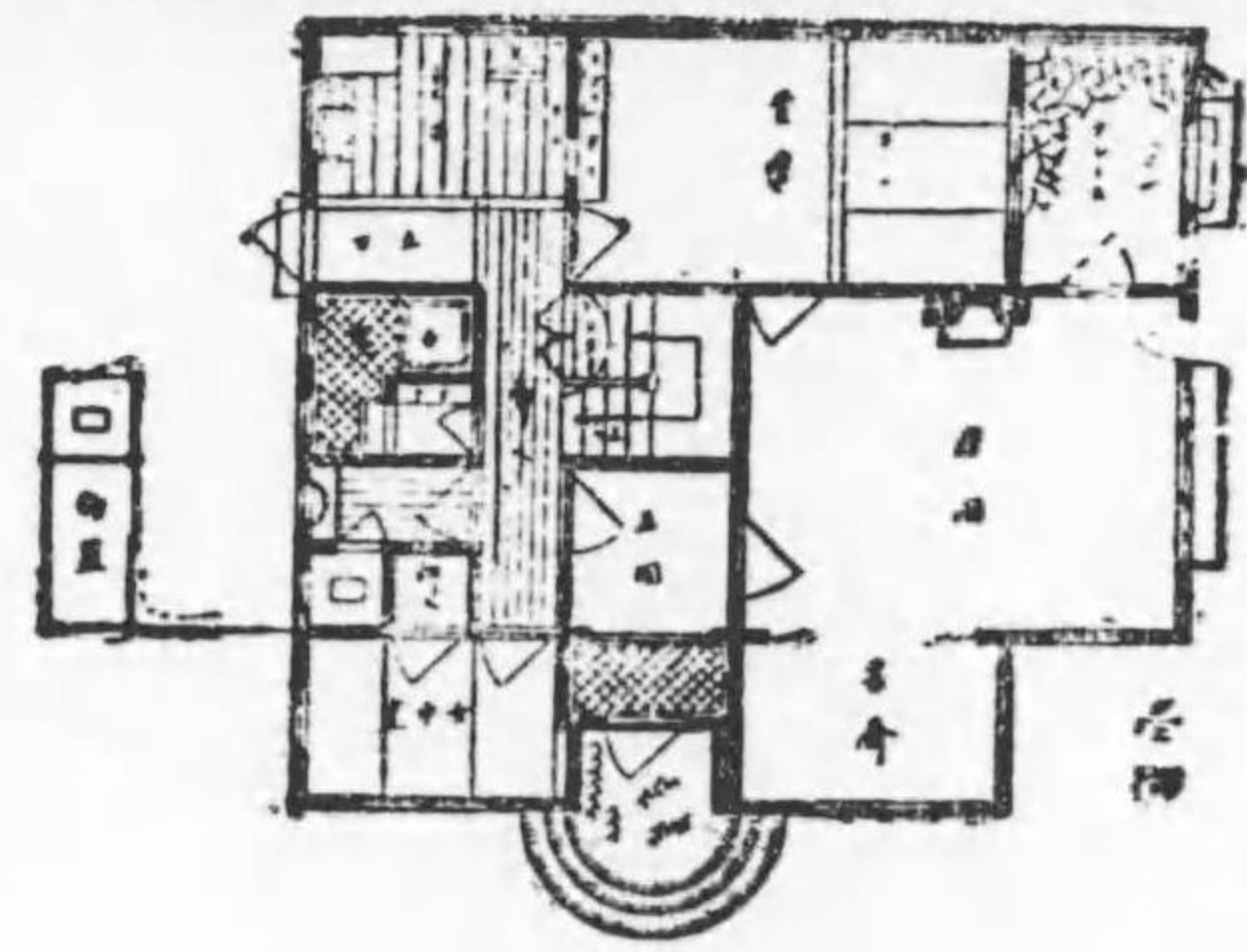
2階

説明
 コロニヤル式のおとなしい外観で、誇張的裝飾分子を省略し、必要の窓、入口等の配列に依て愉快な妙味を出してゐます。
 木造大壁式で、外壁は、堅瓦張り下地スタッコ塗仕上、内部は木摺漆喰塗一部壁紙張り及ペンキ塗仕上です。屋根は北陸産の赤瓦で葺いてあります。居間の天井はタイガーポルト張りの上にペンキを塗つたもので、其の無裝飾な天井と相照應して花模様の壁紙はよくうつります。

第 八 圖
其 二



第九圖
其ノ一 配景及平面

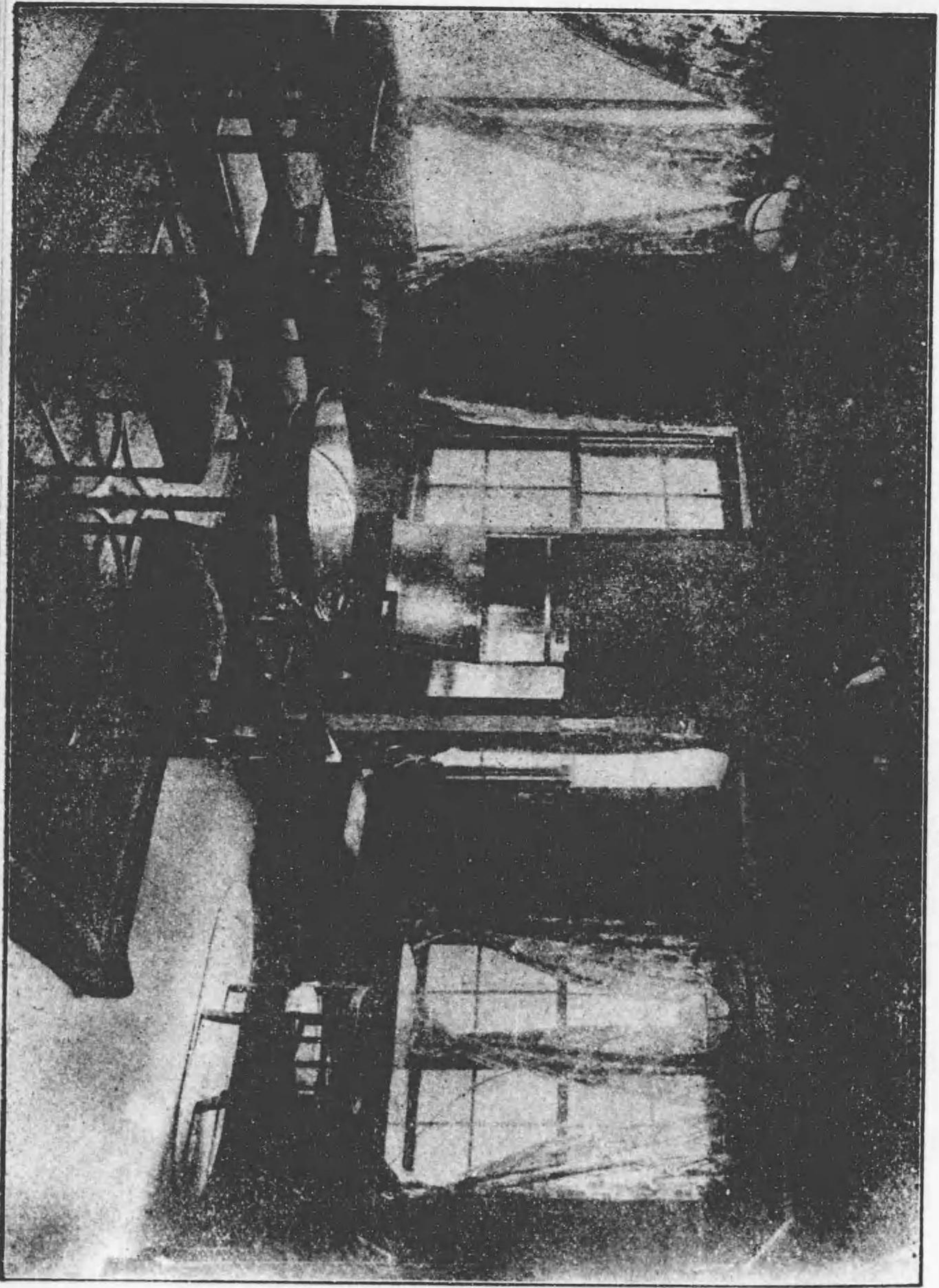


バンガローの邦化されたもので小じんまりと落付ある家です。壁は木造外部竹小舞大壁モルタル仕上、内部は木摺漆喰塗で、一部眞壁の所もあります。屋根は青色セメント瓦で、白壁に腰積の素焼煉瓦と對照して如何にも色の配合がよく、比較的鮮麗に過ぎさうな色彩を斯く厭味なく取扱つたのはうれしい。

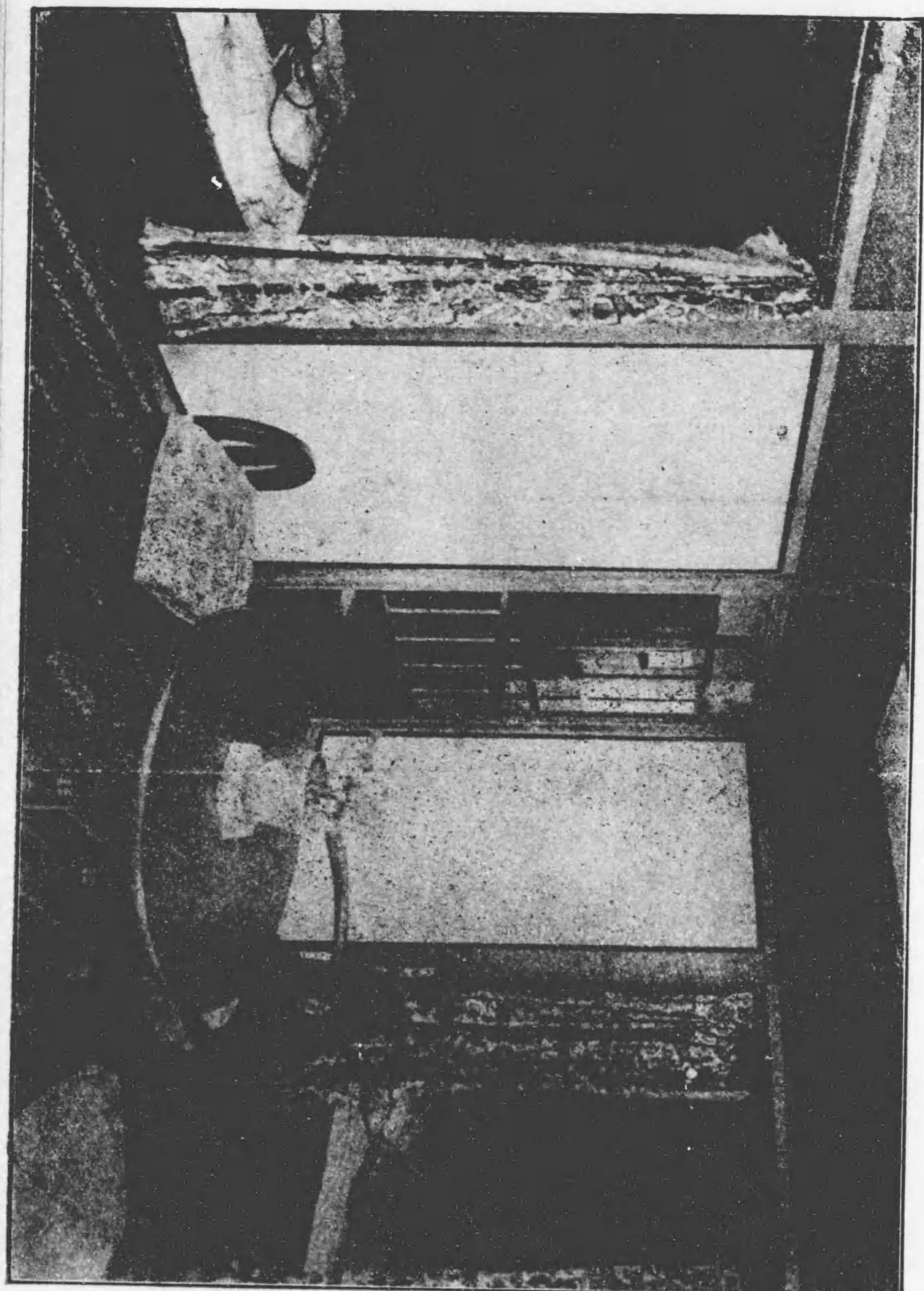
プランも夫れ／＼、位置に配されて居て誠に氣持がいい。殊に二階子供室のベッドの工夫は大變面白いと思ひます。子供室は洋間ですが日大座敷の押入が床の間のやうな、三尺に六尺の四んだ箇所が二箇所あつて、床面より一段高くなつて居ます。軸物でも懸ければ宛然新式の床の間です、夫れがベッドだから面白いでせう。使用せぬ時はカーテンを引くやうになつて居ますから、常時室の整頓を破るやうなことはありません。

二階の老人室だけが日本畳敷で、夫婦室もカーテンで仕切つた化粧室も悉く椅子式です。此家のプランは大分徹底的に改良された様です。

第二十圖
其ノ二(居室)

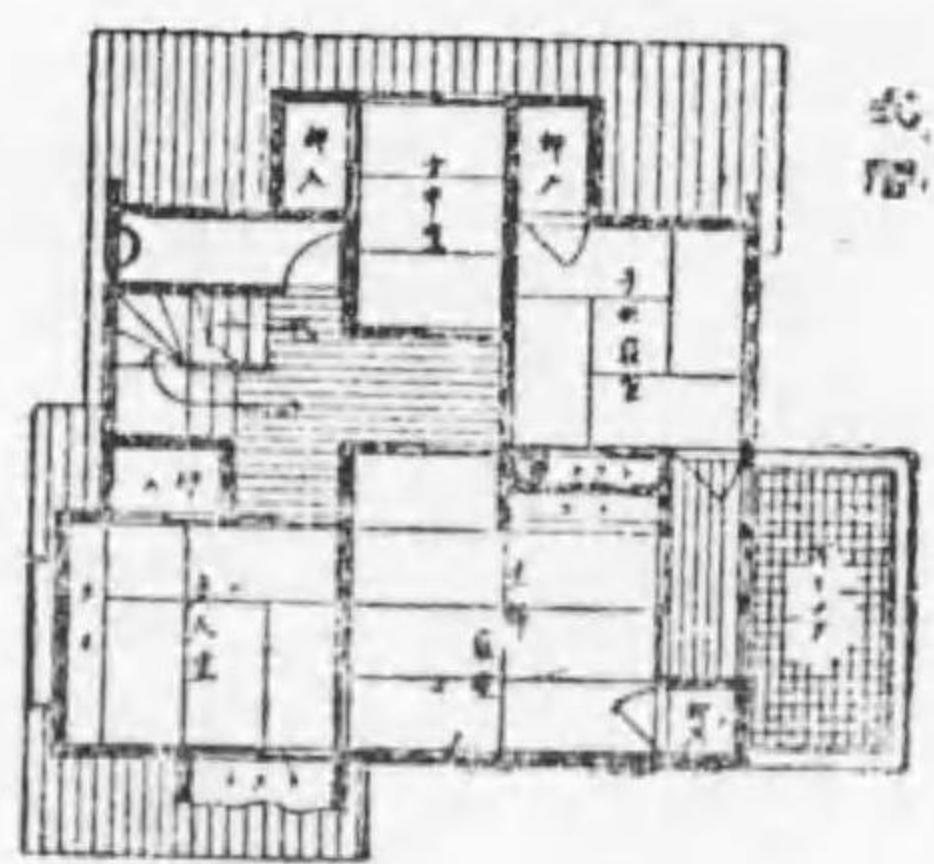
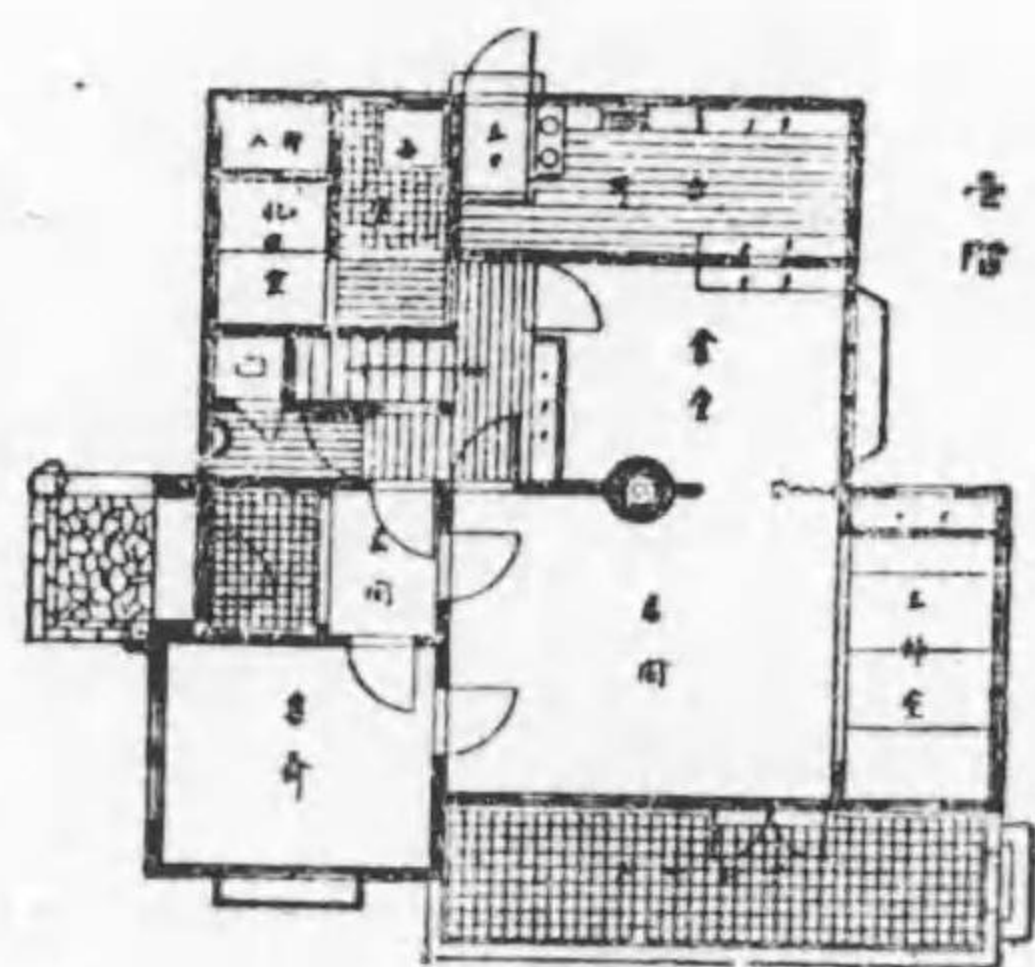
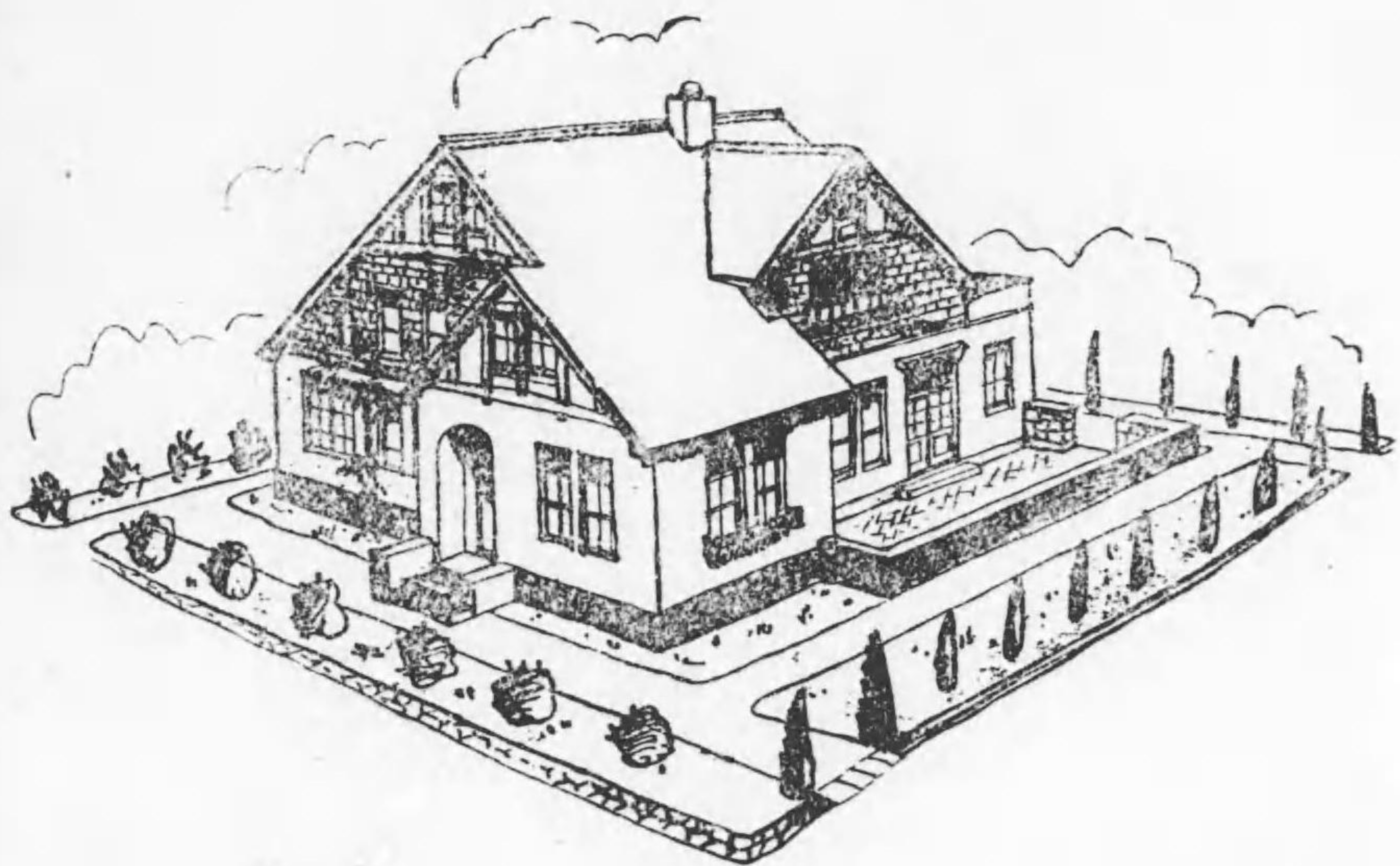


圖室 一子 十三 其



第十二圖

其一



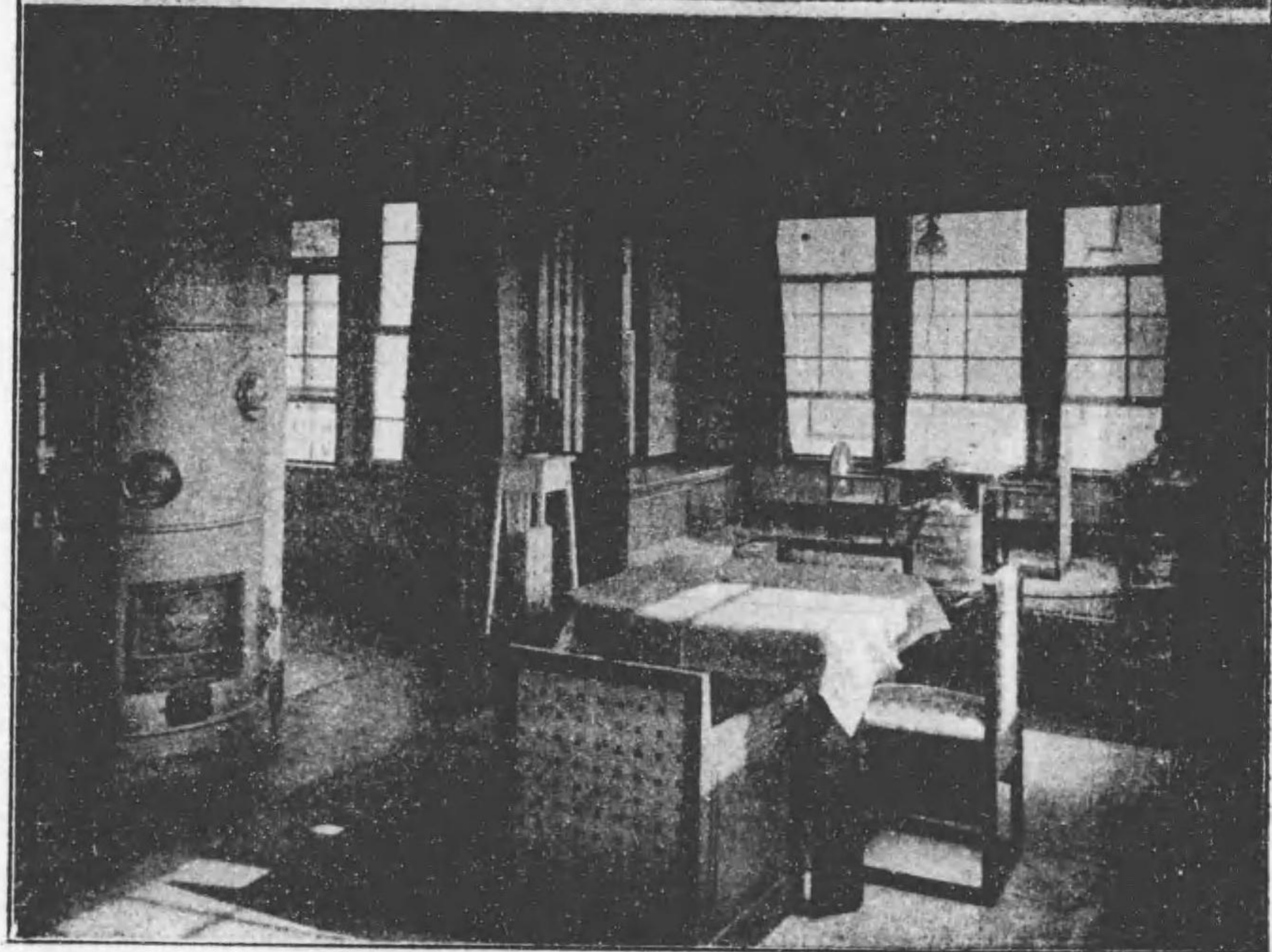
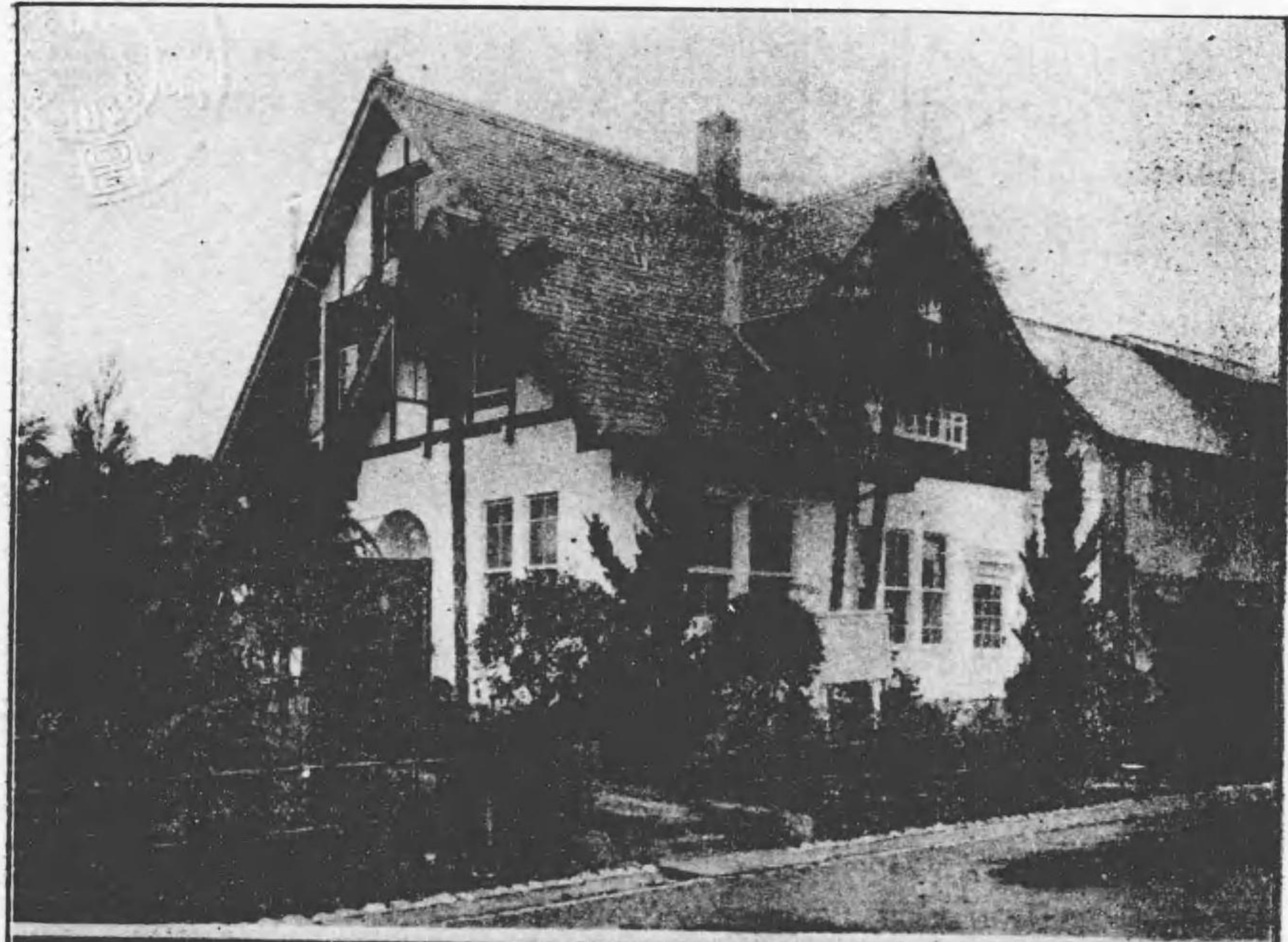
バンカロ式の日本化された極めて氣持のいいもので、天然スレート葺きの屋根に切妻の木の黒味を帯びた縁に白壁をあしらひ、二階外壁を金茶色防腐剤塗り張り下見に仕上げ、腰廻りは赤煉瓦と云ふ何とも云へない色彩の整つた感じのいい外観です。

居間と食堂の壁紙に兩室兼用の銀色に塗り上げた圓筒のベリチカは簡素な室の調和を破るやうです。主婦室の一隅に地盤棚を設けたのはいいと思ひます。

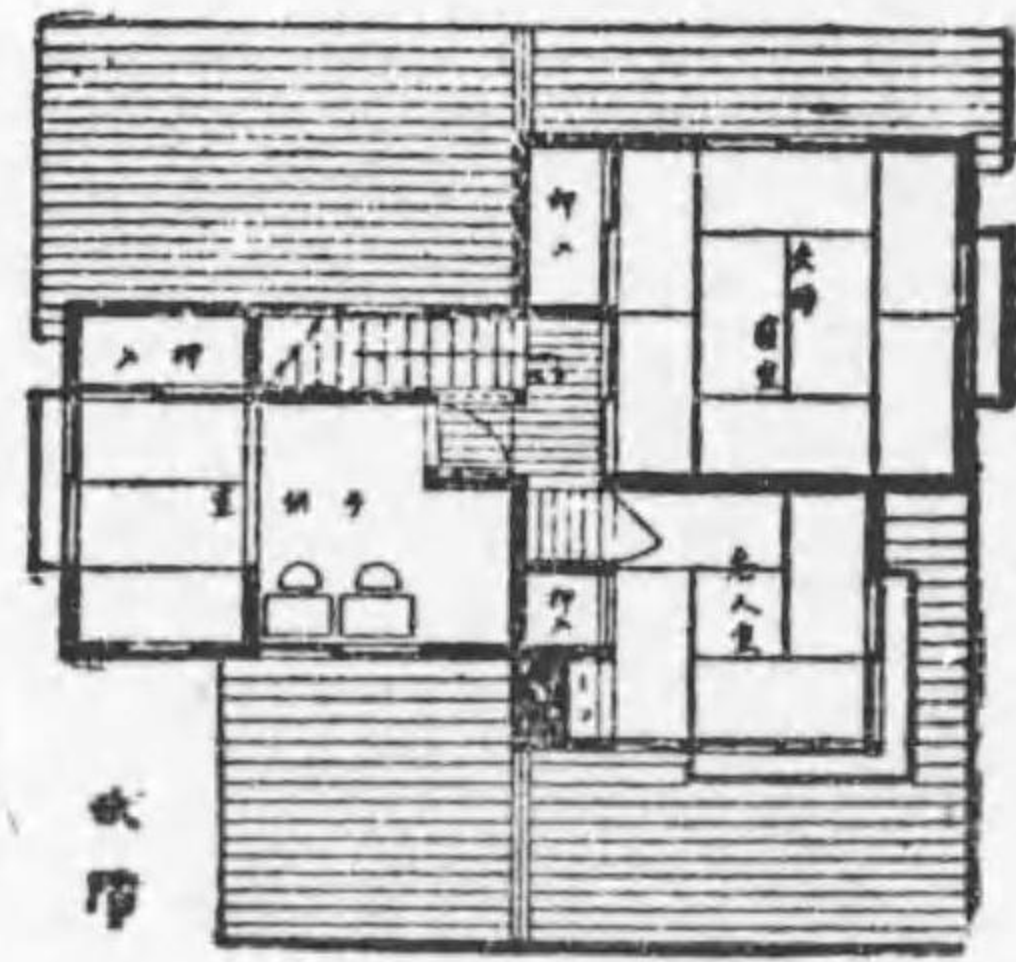
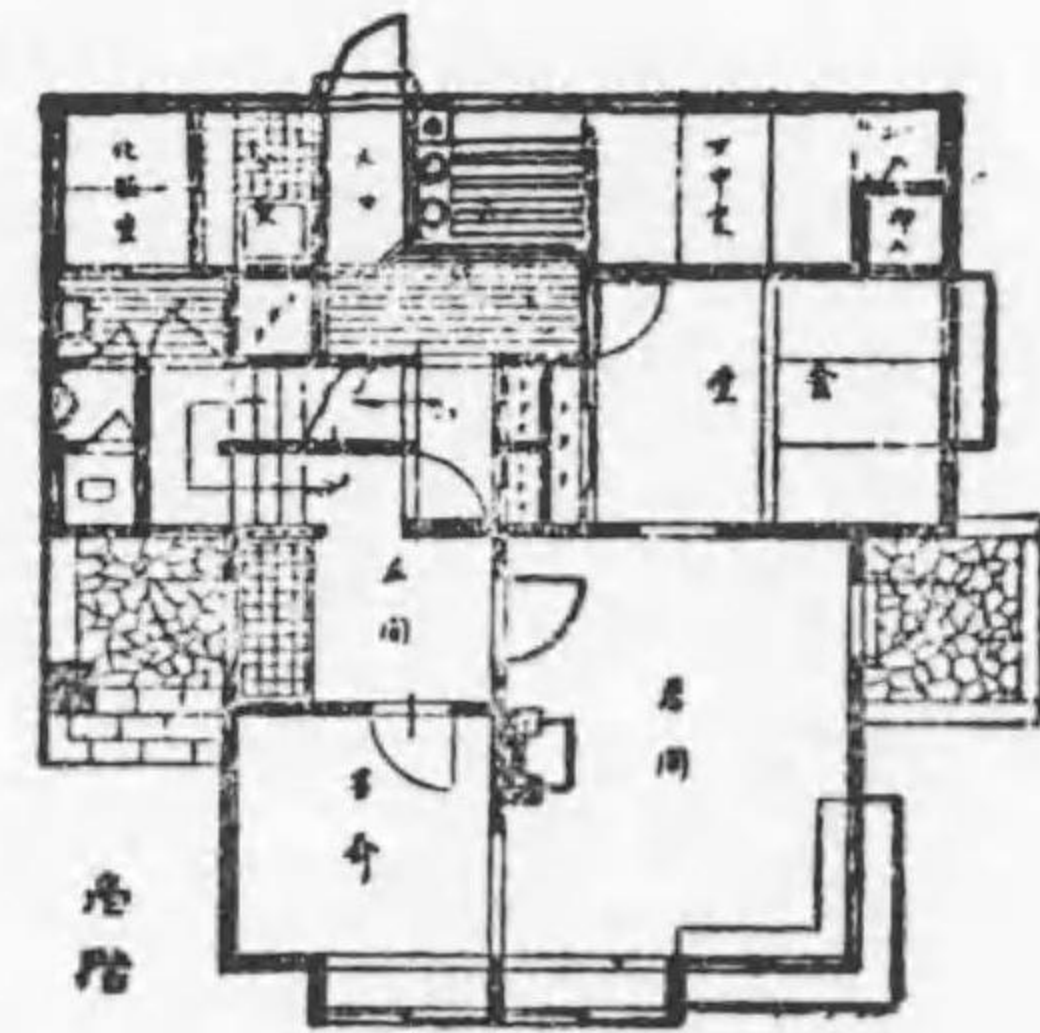
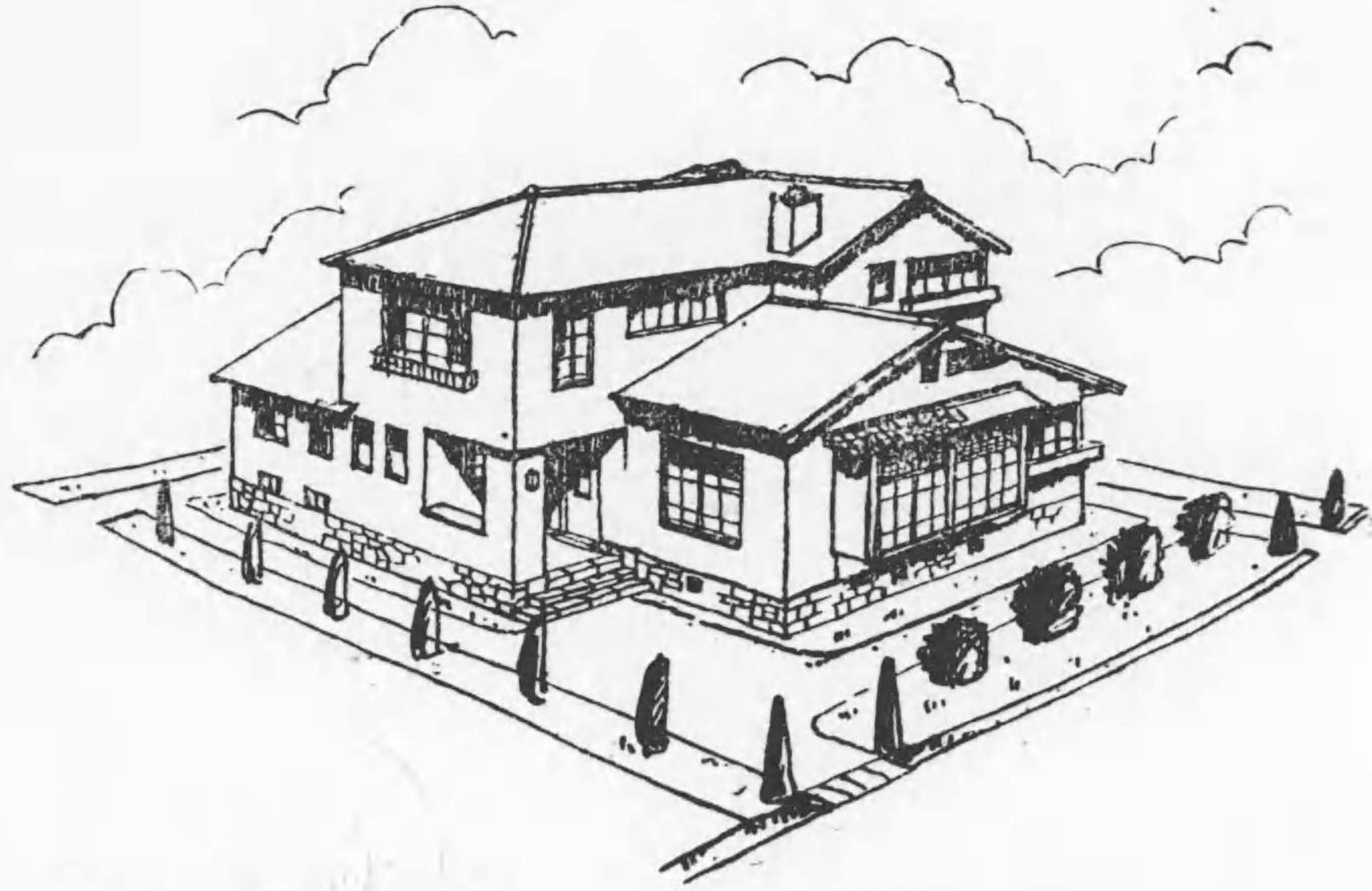
此家は女中室が特に二階に設けられてあります、文化住宅には最も適當な措置でせう。階下の全然椅子式なるが中に獨り女中室のみ疊敷とし、當然それな居室とすることは考へものだと思はれます。

家族が一日の生活を終へて悉く二階に去り、其處に安眠を食する時、深夜一人取り遣されたうら若い女が、其空漠たる一室に就眠する、何たる慘ましいこととせう、殊に女中が淫蕩な女であつた場合、全く家族と隔離された一室に居る、其處に思むべき罪惡の醸されることなからうかと云ふことを想像されぬこともないでせう。私は此家の女中室を思ふて、如何にも一視同仁の暖かい感情が包容された親しみある家庭を想像せずには居られません。

第十三圖
其二



第十四圖
其ノ一

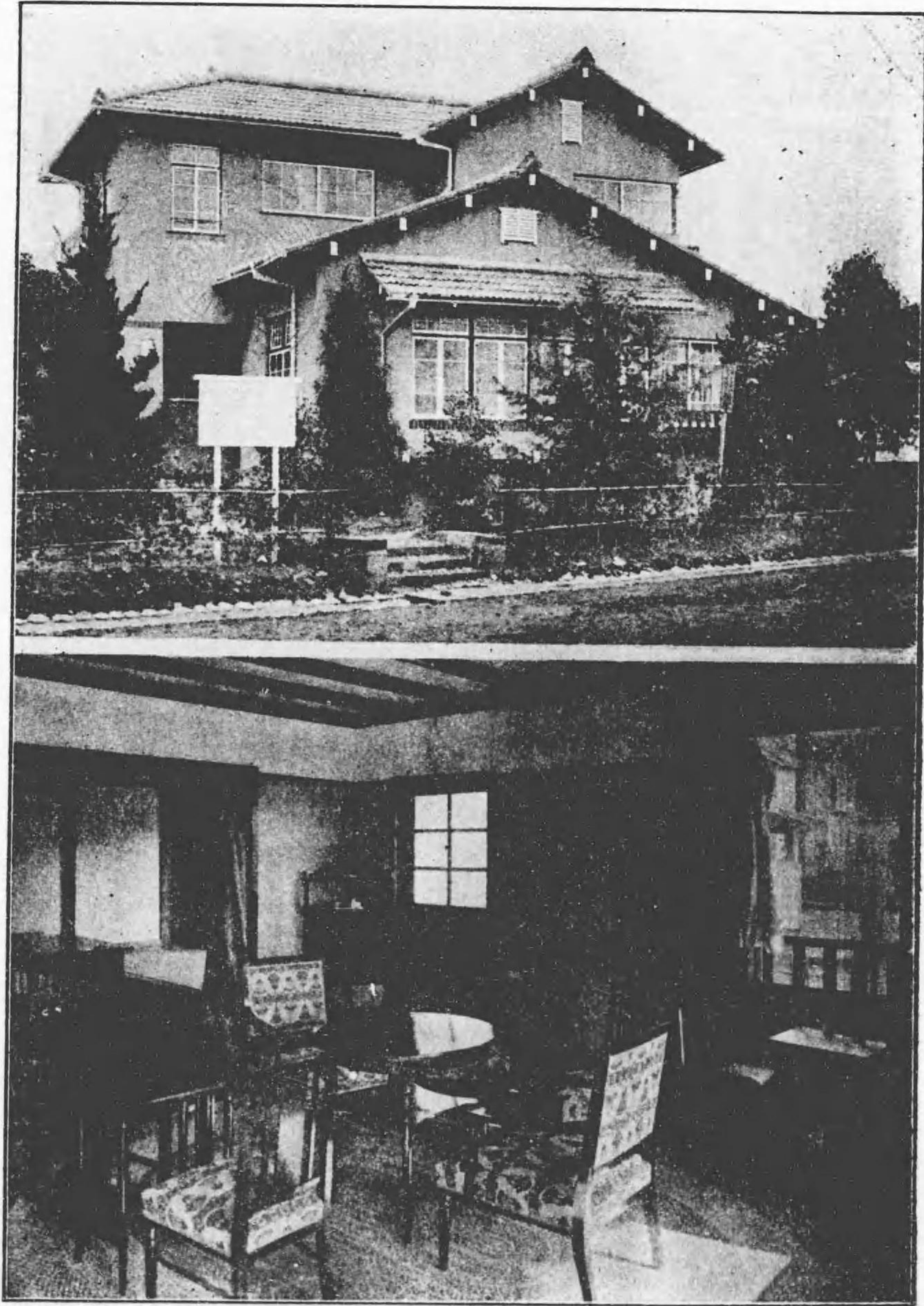


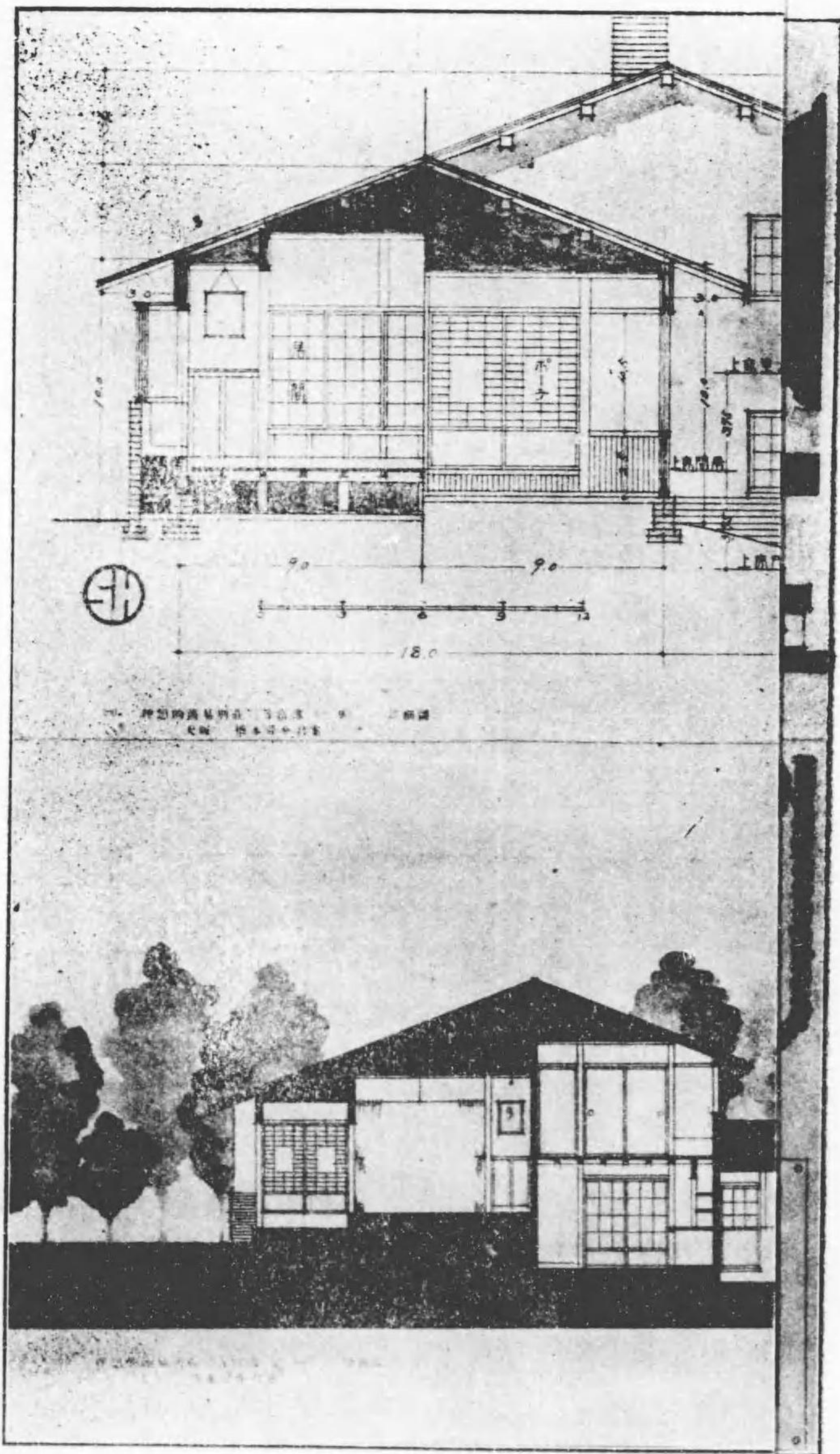
コテージ式の家で、比較的變化の多い屋根に赤瓦を載せてあります。稍濃厚なクリーム色の壁面で、腰廻りを人造石仕上げとし、軒先木部及窓枠等を濃きセピア色に塗上げ、一寸賑やかな色彩を持つて居ますが、變化ある屋根形の爲めに割合ゴテ／＼した感じを薄らいで居ます。

壁體は外部大壁モルタル塗、間切壁は眞壁、内部漆喰塗、階上は眞壁です。居間の家具はしよやかなものが配されて大さう感じよく思ひました。

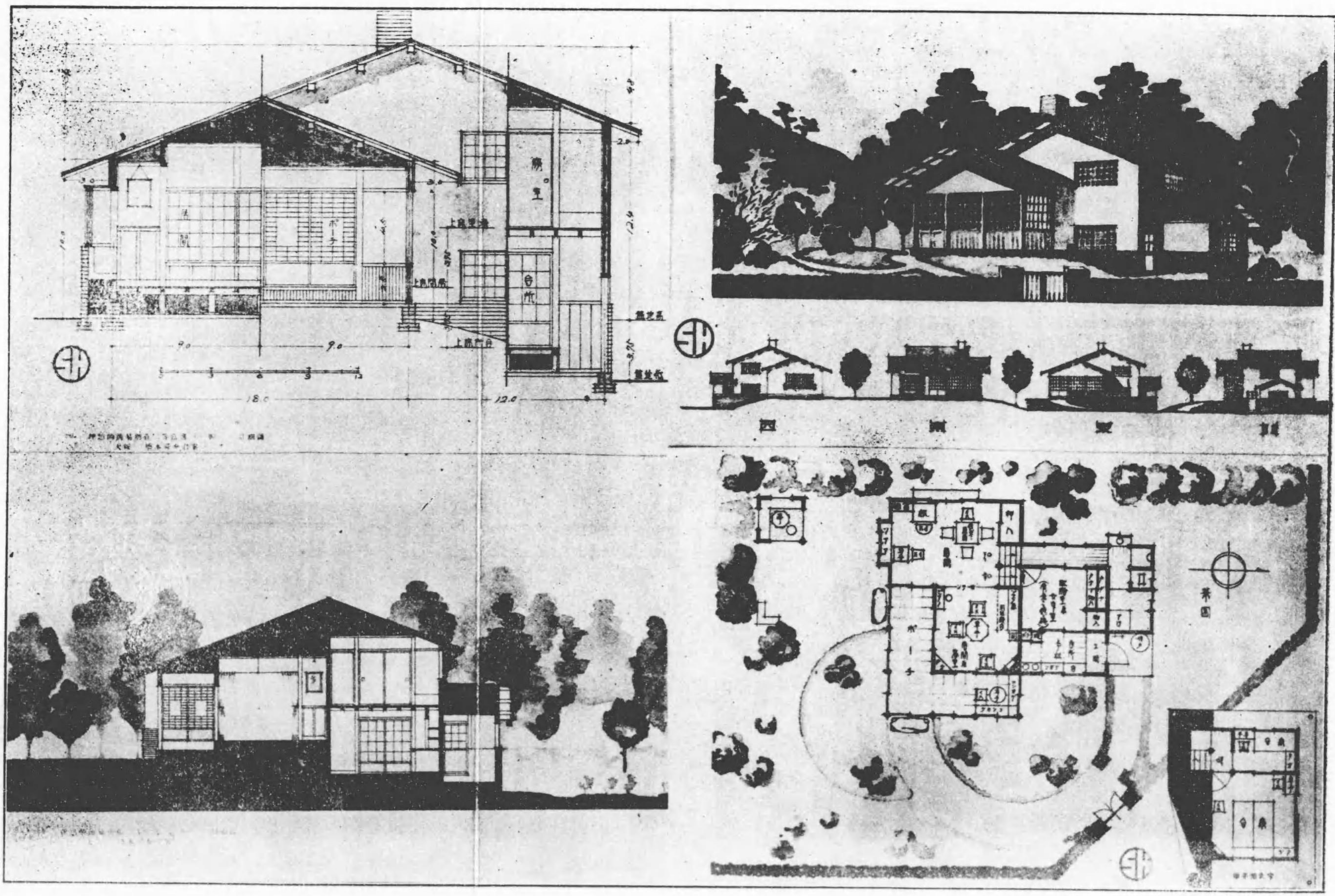
それから浴室化粧室の床を稍高く取り、下に位する一部に地下室を設けて内藤式無煙風呂と云ふのが備へ付けてあります。焚口以下の一部は物置様に利用する事も出来ませう。

第十五圖
其ノ二



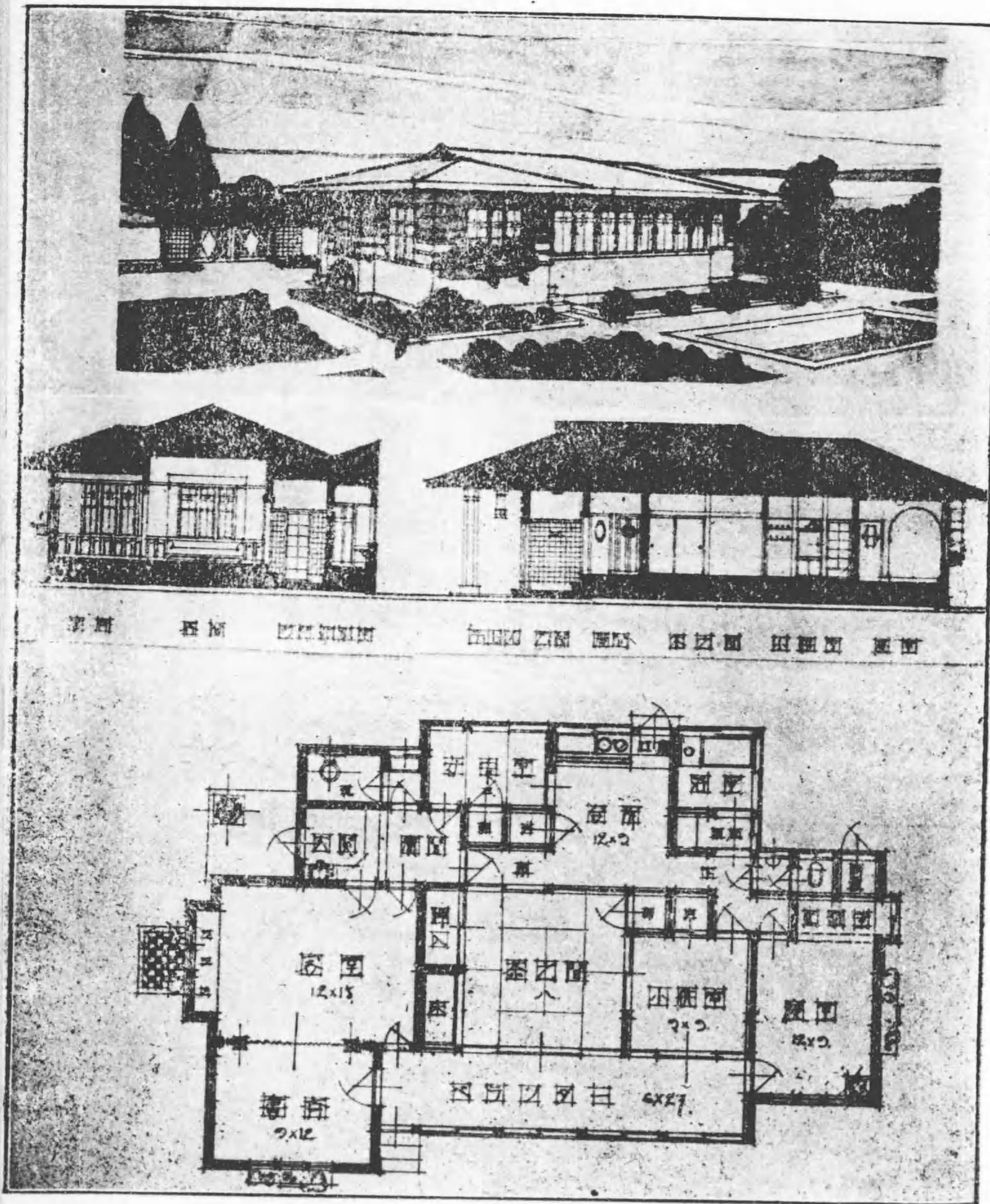


第十六圖

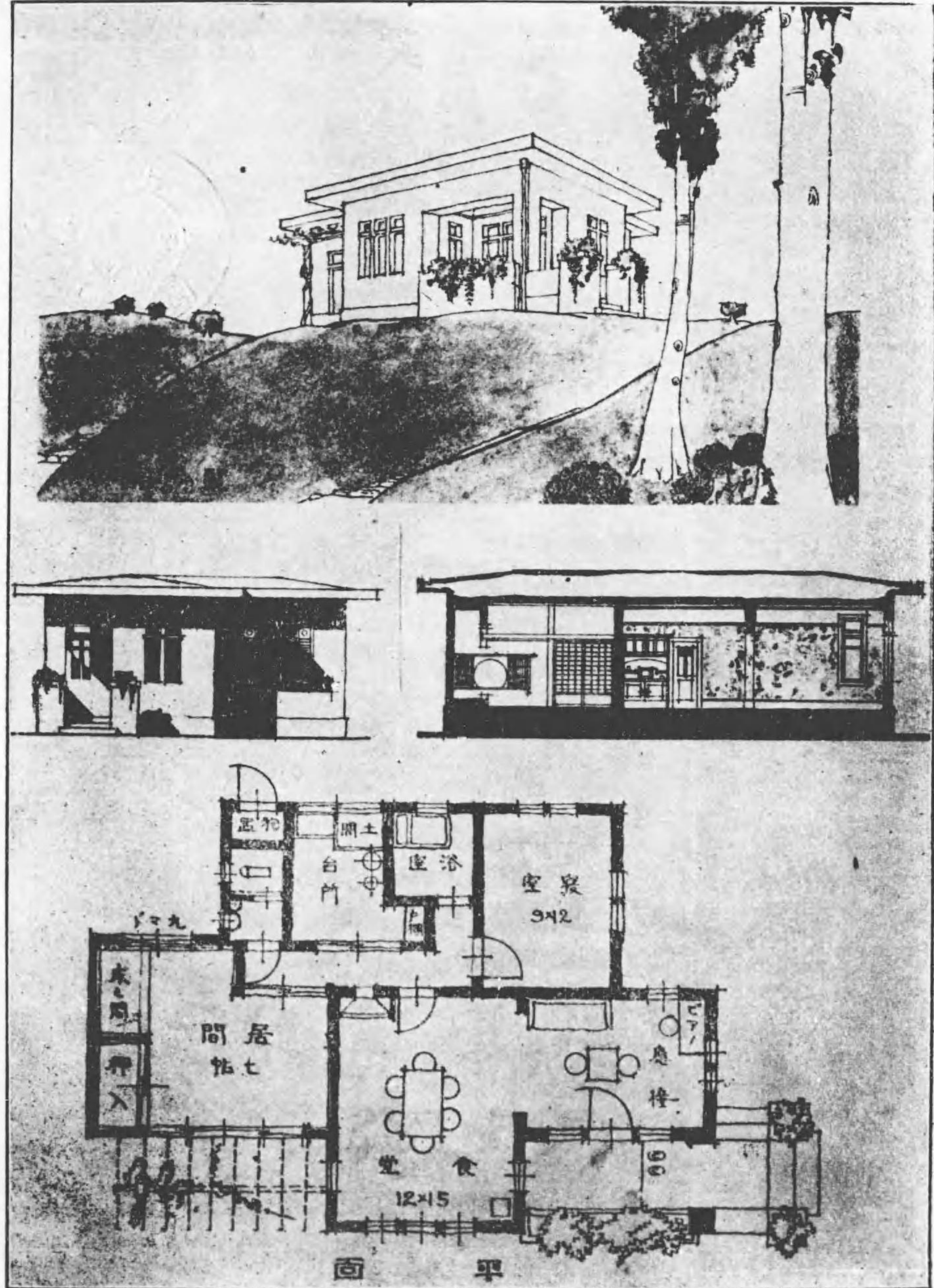


第十七圖

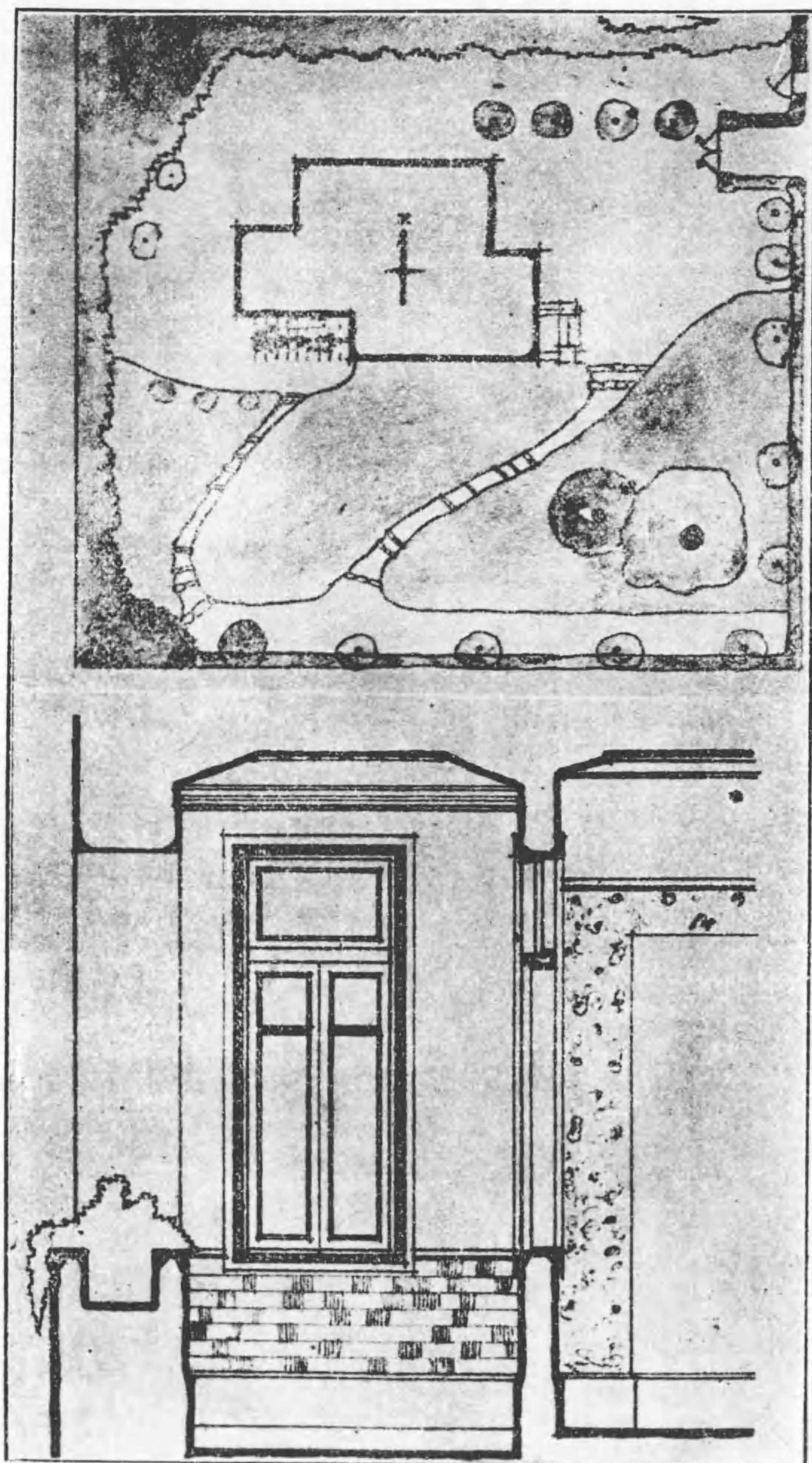
其一

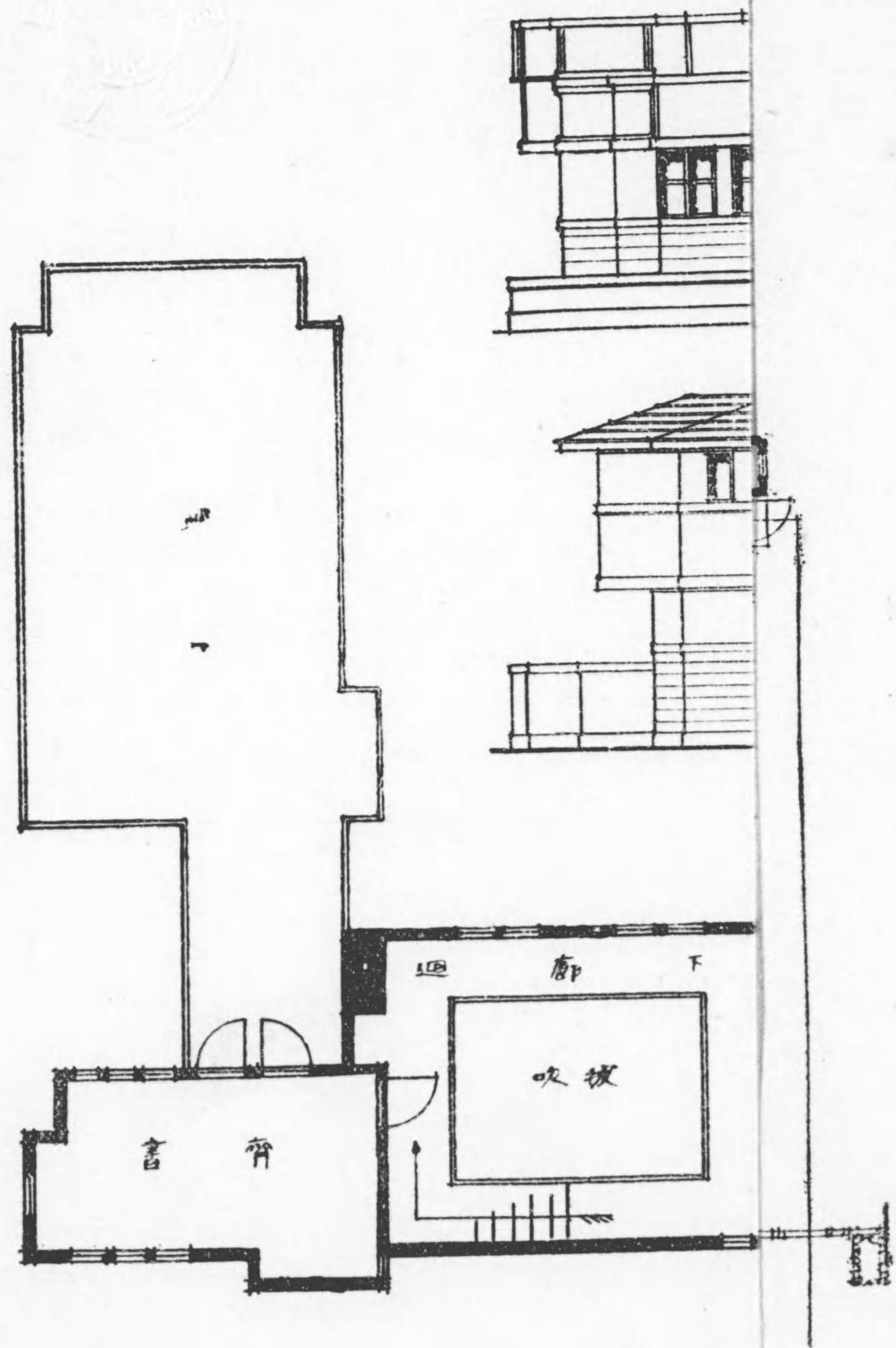


第十九圖
其ノ一



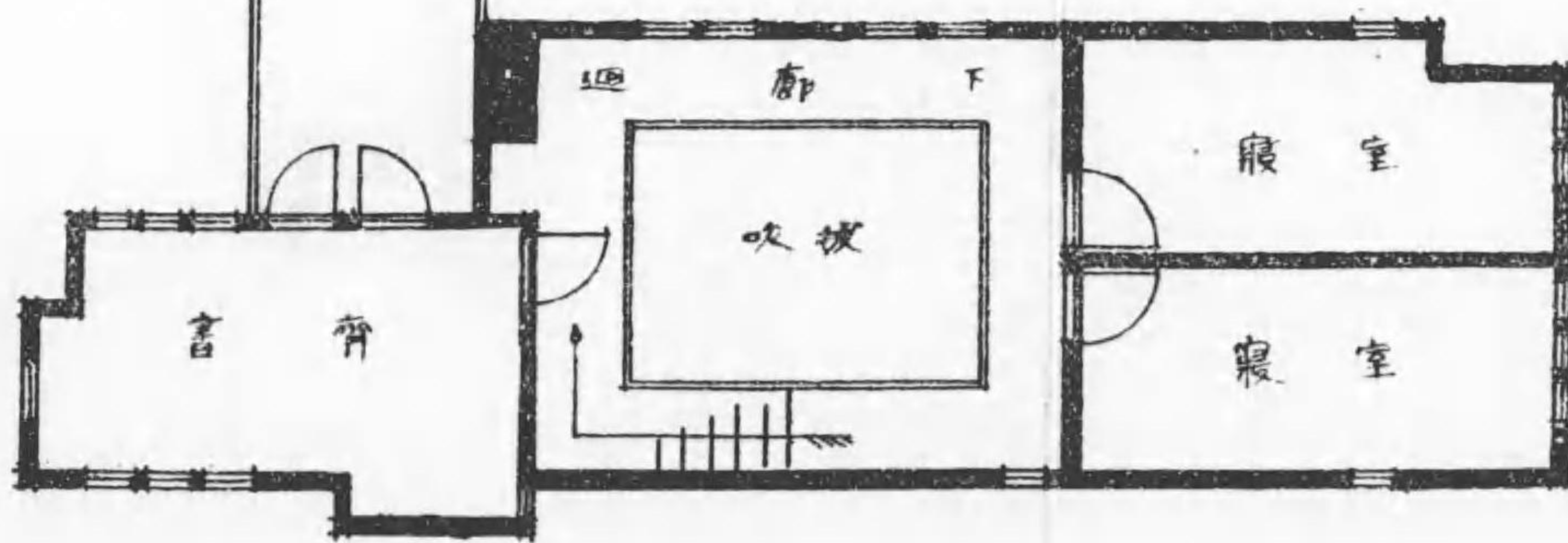
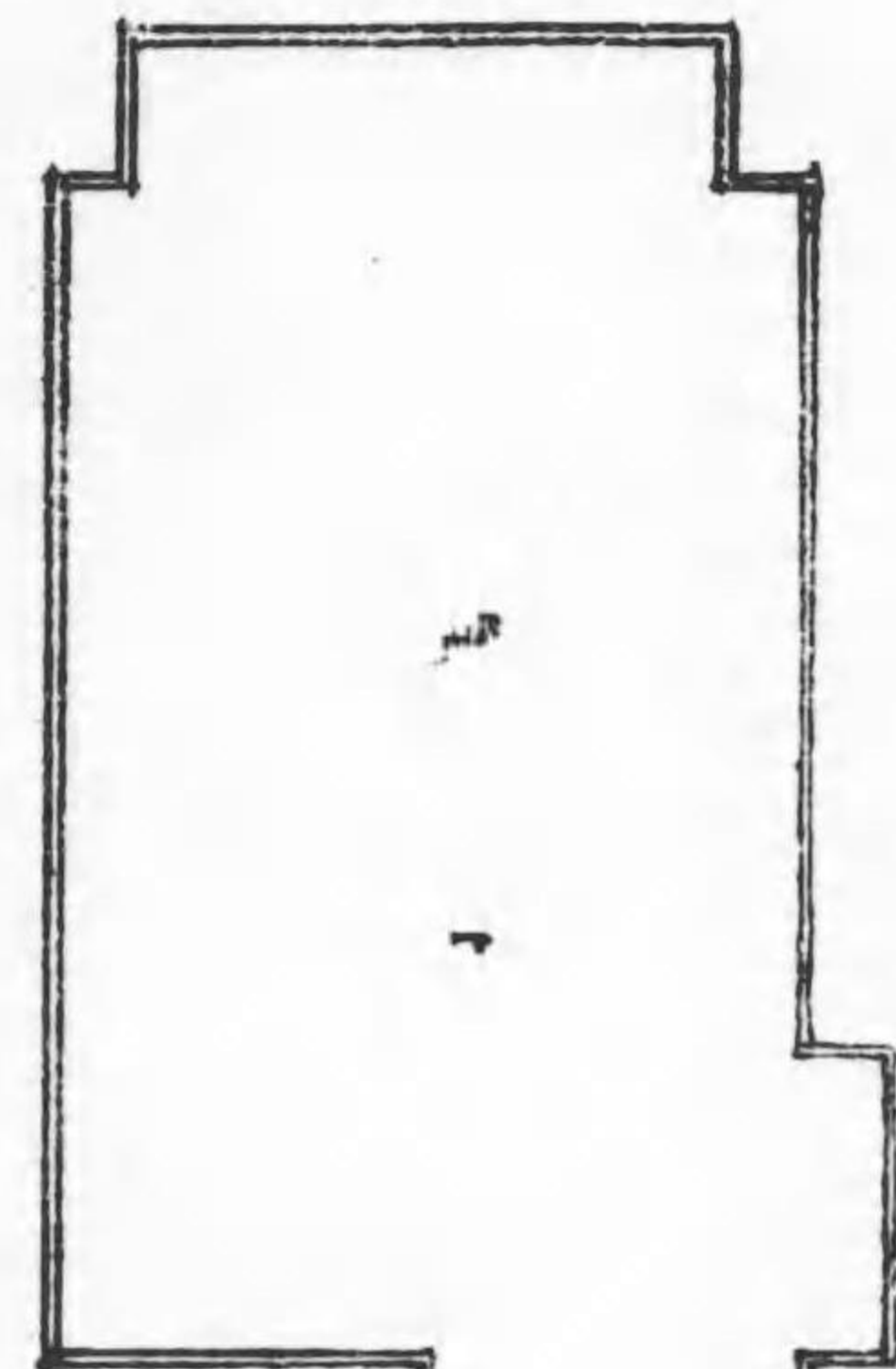
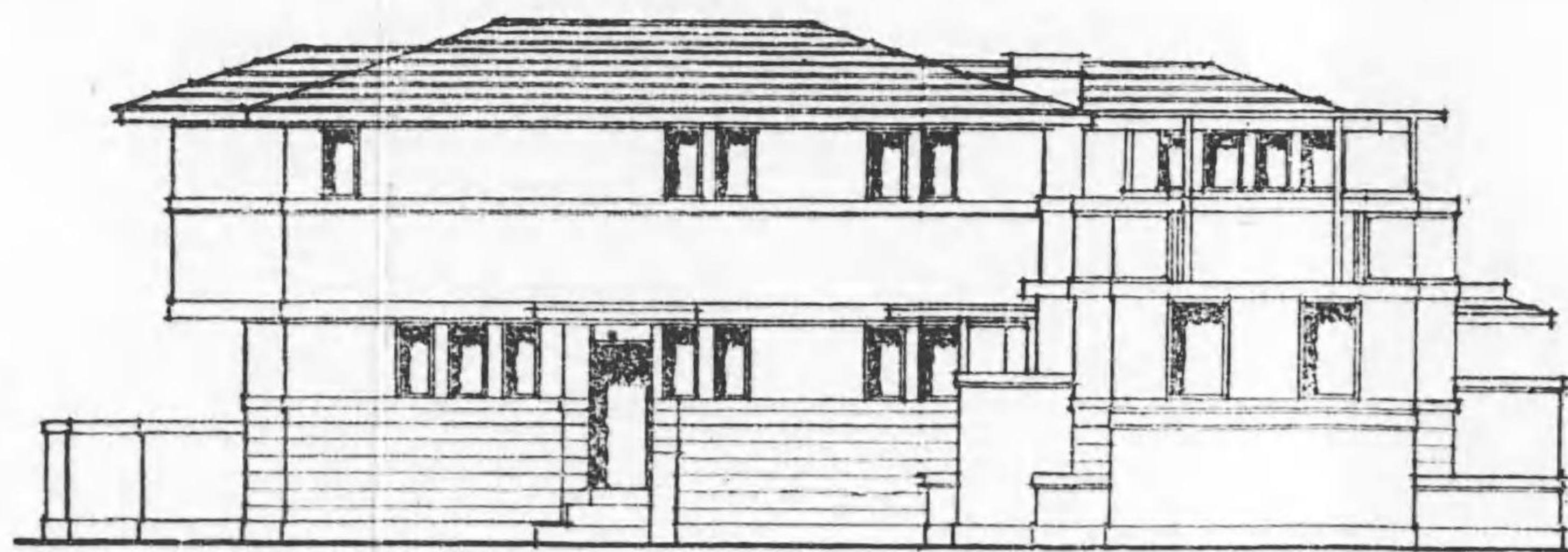
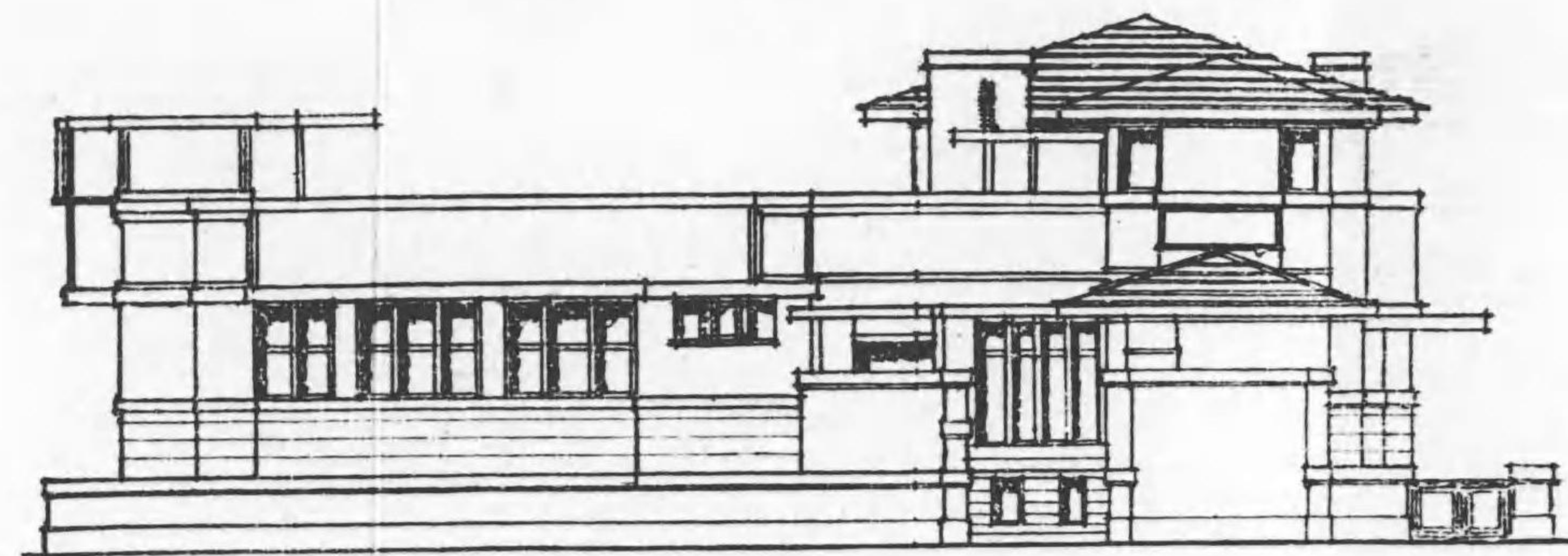
第 廿 圖
其 二



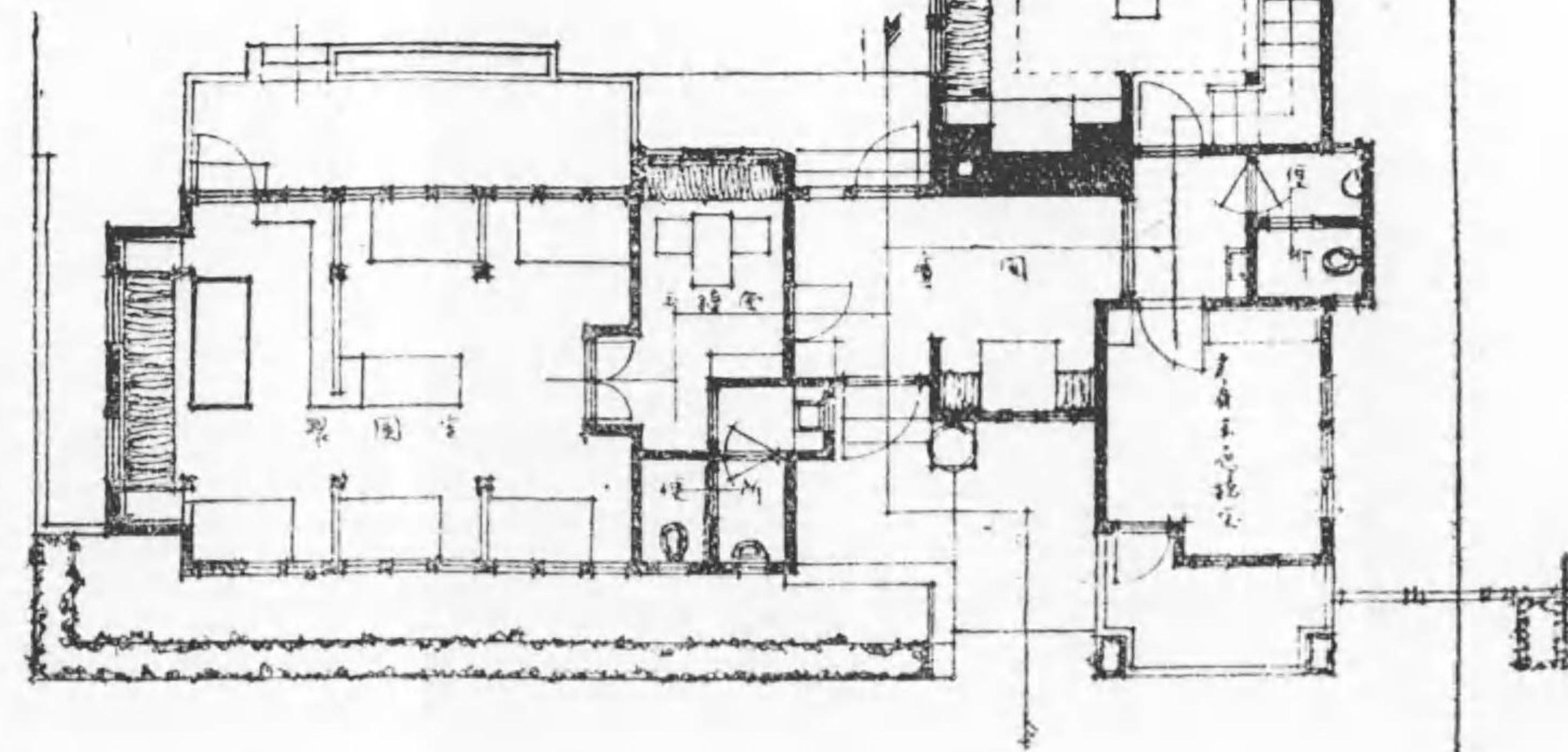


階上平面

第 廿 一 圖



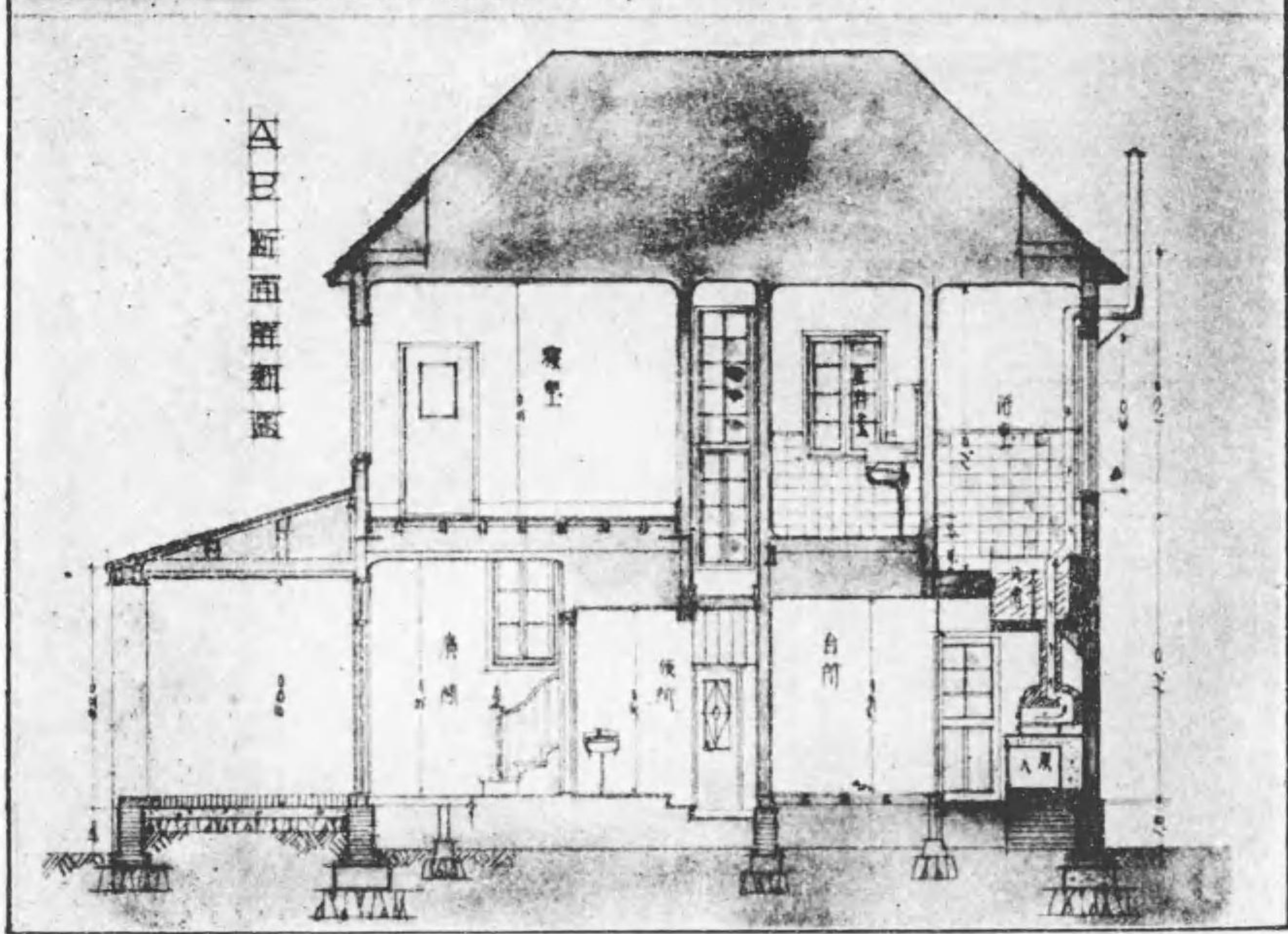
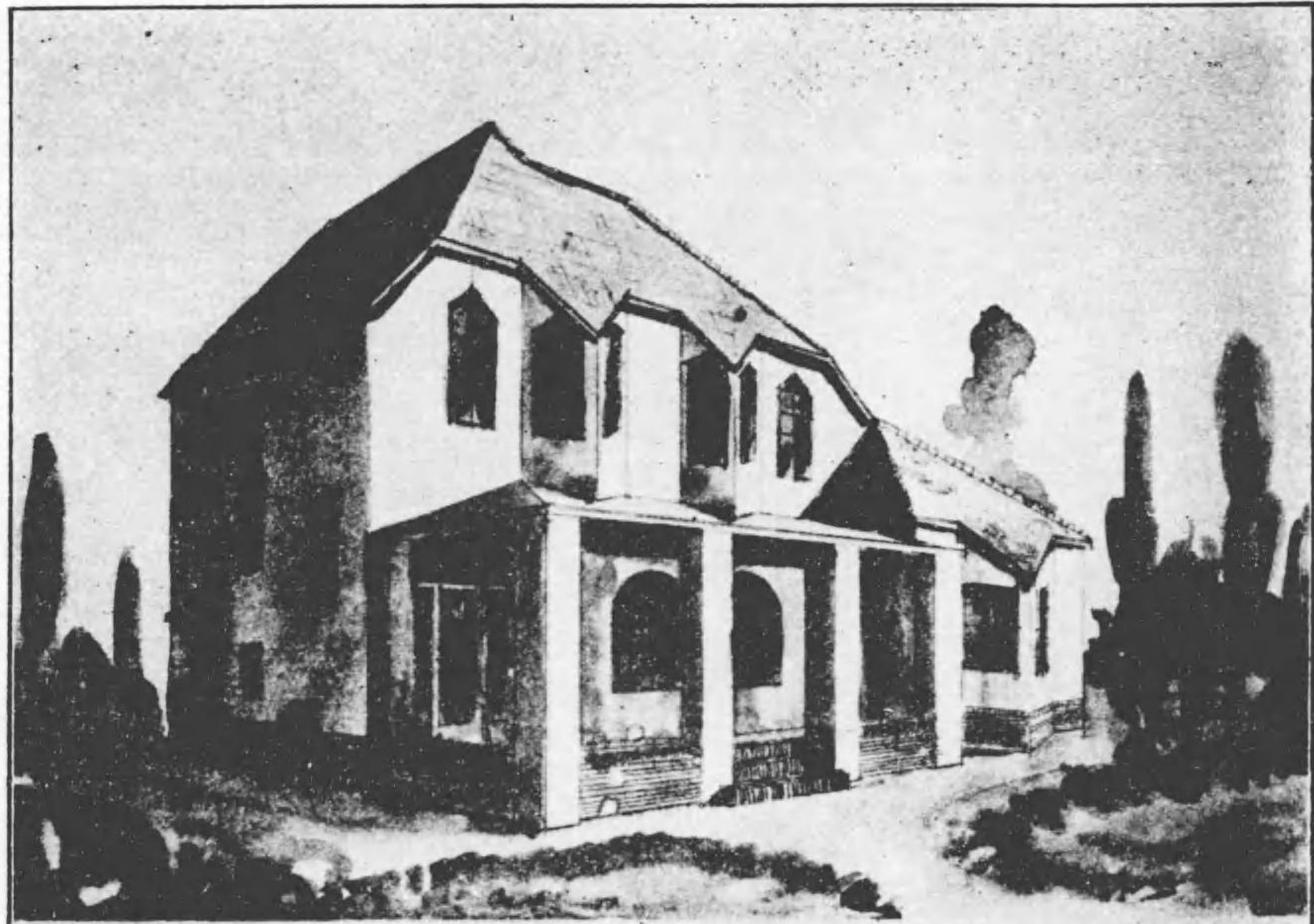
階上平面



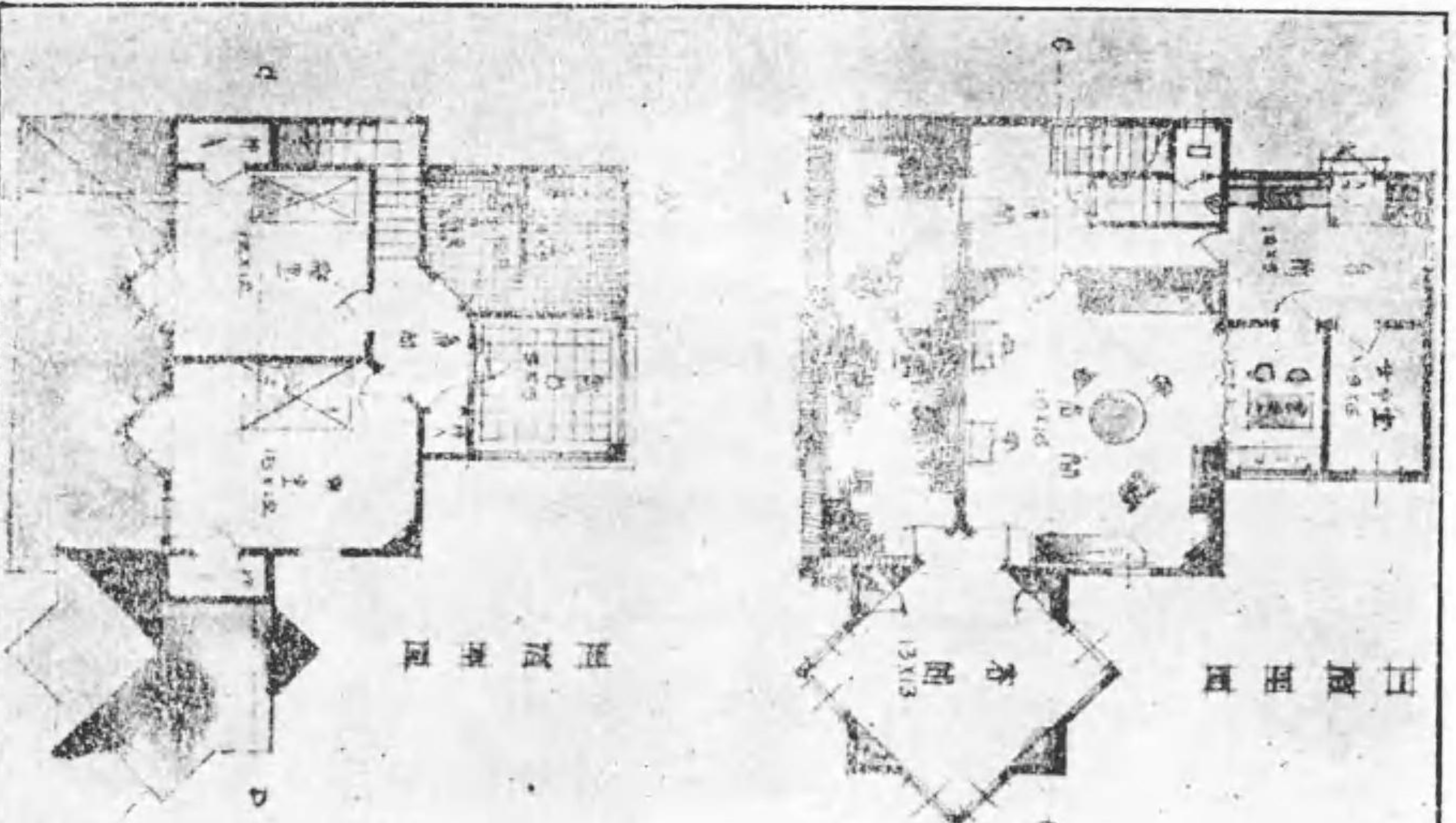
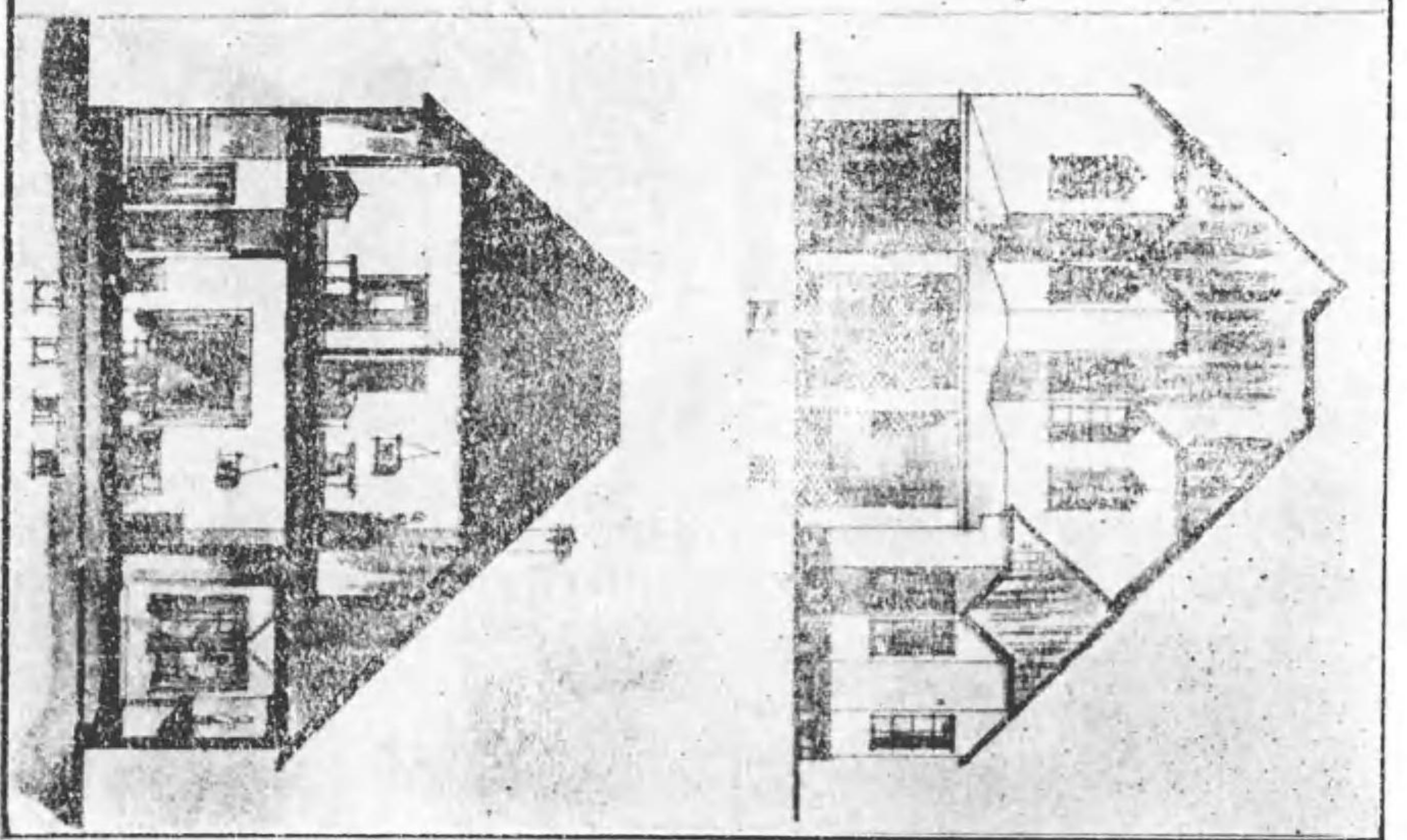
階下平面

ン イ ザ デ の 家 築 建

第 廿 二 圖
其 一



坪数は延壽拾肆四合の木造二階建に致しました之が外觀の透視圖です。
 障は燦光葺で外部壁は脚色の漆喰塗にして、屋根は赤瓦で葺き前の少し廣いポーチの周りを
 雑花で飾られたなら割合に輕快な變化に富んだ家となります。
 次に平面ですが降下は居間、食堂、客間、台所、女中室、便所等二階は寢室が主で他に浴室
 化粧室露台を取りました。
 階上の客室は二間四方の平屋で、四方共三角の下座を附け、其れを室に取込込んで、木屋の
 四隅を飾り棚や戸棚に致し、室内だけ四拾五度に振れた變化ある一室に致したのです。尚庭
 園散步等に便利のためポーチに直接出入口を設けました。そこで二階の浴室の床を化粧室が
 ら順に段を付け、一尺八寸ばかり下げ浴槽の低な台所に下げ、台所の入口脇で焚くように致
 してあります。水道は直接二階に導き、非戸なれば水槽を作りボンプで水を上げる様に致し
 ます。化粧室及び浴室は床及び腰廻りをタイル張りに致しました。其れらか二階に露台を取
 ったことは、入浴後涼みがてら庭園を眺望するにも、又秋の月見等に効果あることと思ひま



第廿三圖 其ノ二

說明

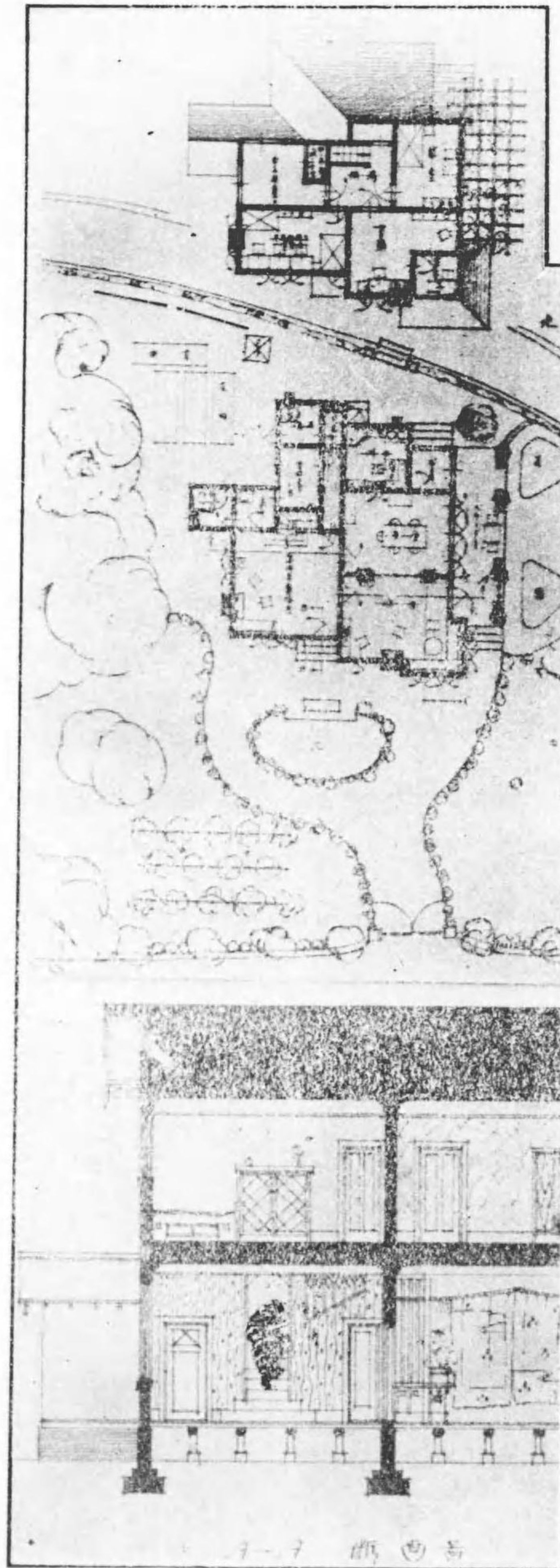
建坪
家族數

階下
夫婦二人
貳拾六坪八合

階上
三人
拾七坪五合

ベランダ
四坪七合

延坪
四拾九坪



善白郡 7-7

第 廿 四 圖

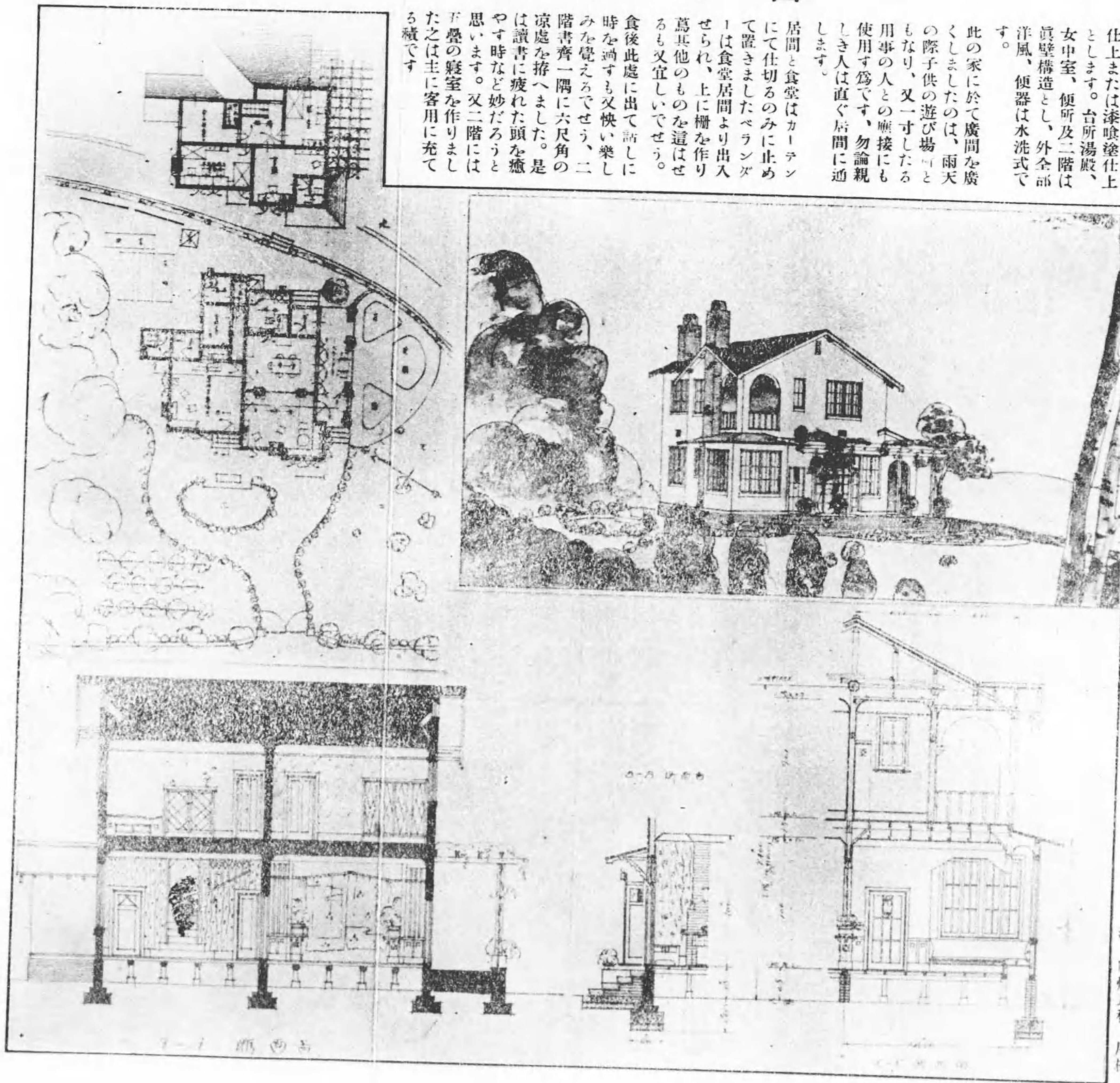
說明

建坪 貳拾六坪八合
 階上 拾七坪五合
 延坪 四拾九坪
 家族數 夫婦二人 子供三人 女中一人
 ベランダ 四坪七合

敷地郊外、南方及東北方は畑山を挟んで遠く連山と對し、眺望佳にして北西は森林。構造は洋風二階建、木造スタックコート、漆、腰煉瓦積、屋根赤瓦葺、内部壁は紙張仕上げまたは漆喰塗仕上げとします。台所湯殿、女中室、便所及二階は眞壁構造とし、外全部洋風、便器は水洗式です。

此の家に於て廣間を廣くしましたのは、雨天の際子供遊び場となり、又一寸したる用事の人との順接にも使用す爲です、勿論親しき人は直ぐ居間に通します。

居間と食堂はカーテンにて仕切るのみに止めて置きましたベランダは食堂居間より出入せられ、上に柵を作り葛其他のものを這はせるも又宜しいでせう。食後此處に出て話しを時を過すも又快い樂しみを覺えるでせう、二階書齋一隅に六尺角の涼處を拵へました。是は讀書に疲れた頭を癒やす時など妙だろうと思ひます。又二階には平疊の寢室を作りました之は主に客用に充てる積です



西面

正價 金壹圓貳拾錢

大正十四年五月廿日印刷
大正十四年五月廿五日發行

東京市神田區三崎町三丁目七十三番地

帝國建築協會

編輯兼發行者 代表者 池田 仲治郎

東京市小石川區表町百〇八番地

印刷所 勇進社印刷所

東京市小石川區表町百〇八番地

印刷者 中橋 昌平

不許復製編



發行元

東京神田三崎町三ノ七三
振替口座東京六八一四三番

帝國建築協會

電話四谷一九三九番

大賣所

神田、東京堂、泰文堂、富文館
東京日本橋、至誠堂、丸善書店、地方各支店
淺草、清水屋書店
大阪 柳々堂書店、丸善書店

537
140

終